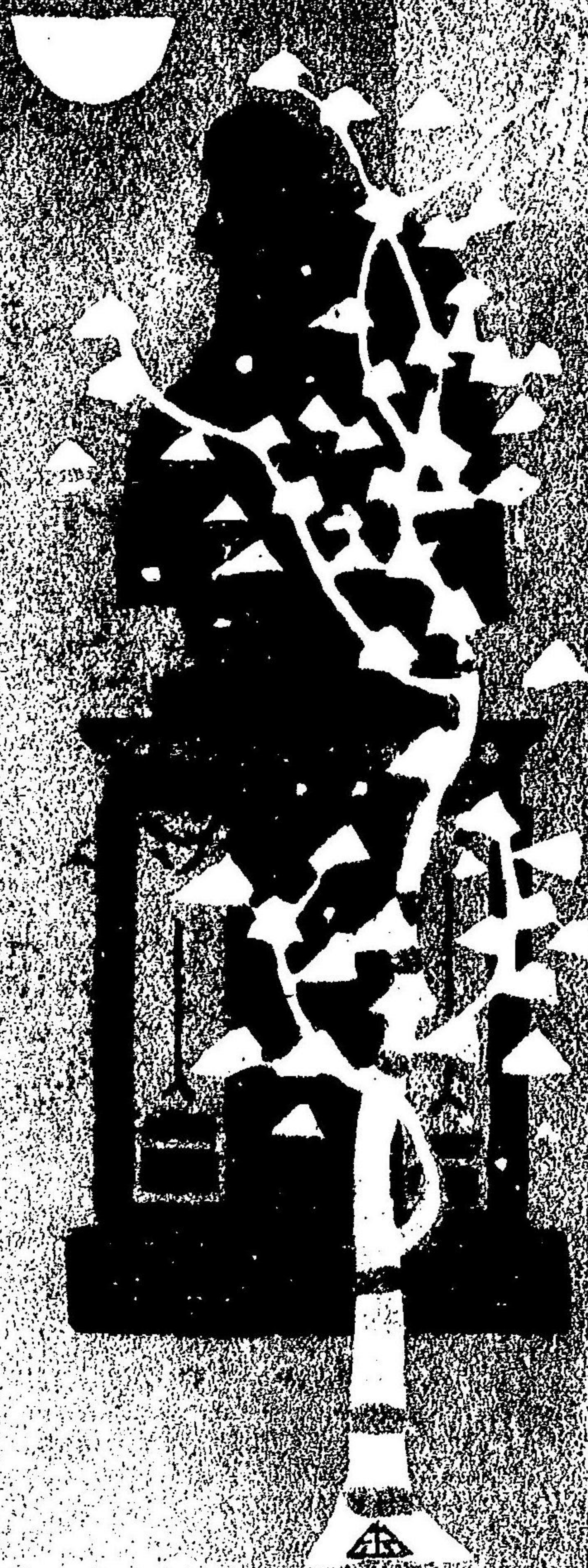
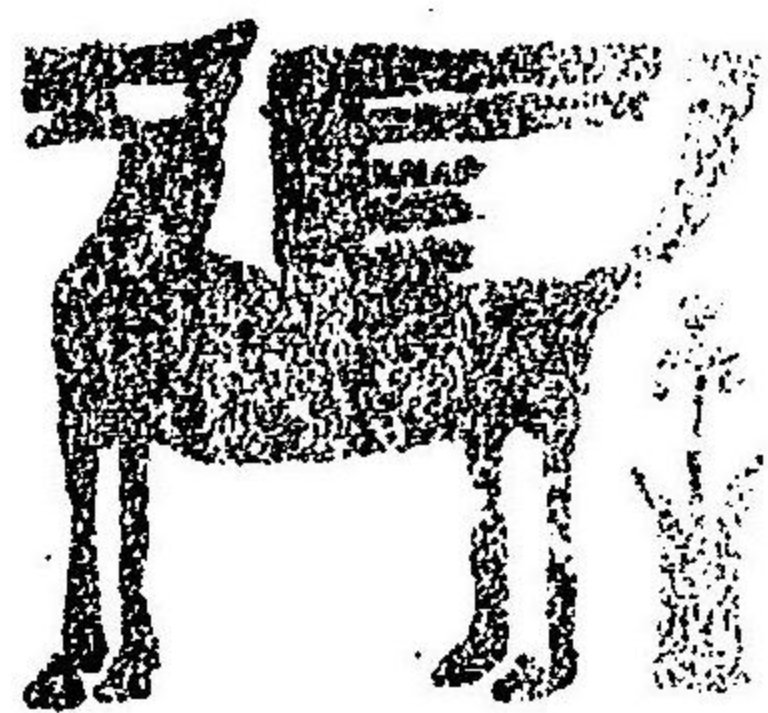


偉人との修養



96-566

米國 マーデン原著

文學士 藤井黙花譯

偉人と修養

東京文成社

明治
43.11.4
丙午

序言

世人の偉人に渴望せるや久矣。偉人出でざる乎。抑も亦偉人出づるも世人の之を認むるを得ざるに非ざるなきか。

古人曰く。王侯將相奚有種と、生れながらにして何人と雖、英雄たり偉人たるもの無し。那翁のユルシカ島に在りて一砲兵士官たりし時、彼は果して歐洲を捲席するの大望を懷きしか。豊太閤の始めて信長に仕

へし時、渠奚んぞ鷄林入道を震駭せしめん
 ことを豫想せんや、

人の生るるや多少智能の優劣はある可し
 體質の差異はある可し、然れども是等は敢
 て生涯の大局に影響する程大なるものに非
 ず、唯だ修養の一事のみ人間生涯の運命を
 決定す。那翁が少時ブリエンヌ兵學校に學
 びし時、智能に於て、體質に於て、若くは
 其門地に於て彼に勝りし者あらざりしか。

吾人は信ず、此等の點に於て彼に勝りし者
 必ずや二三人に止まらざりし事を、又豊太
 閤が幼時日吉丸と呼びて愛知郡中村の光明
 寺に在りし時、渠は果して同輩を驚かせし
 天才を有せしか、史家の傳ふる所に依れば
 彼は常に師僧を困厄せしめし悪戯者なりし
 と、那翁も豊公も、生れながらにして決し
 て萬人に輩出せし人物にてはあらざりき。
 唯だ彼等は常に修養を怠らざりしのみ、修

養を怠らざりしと云ふ一事は、彼等をして天下に斯の大名を成すに至らしめたり。古來偉人多し、然かも一人として修養を怠りて尙ほ偉業を成就せし者ありや、將た又修養に力めて尙ほ偉人たるを得ざりし者ありや。不斷の修養！是れ何人をも知らず識らずに偉人たらしむる唯一の秘訣なり。

原著者マーデン氏は『青年の指導者』として世人の知る所、其著書は全世界の青年

が争つて愛讀するものなり。本書は修養する者は何人にも偉人たり得べく、又青年は如何にして修養すべきかを、近代成功者の實蹟を示して説き、その言ふ所、先人の未だ云はざりし點に及ぶ。近時我國に於て偉人の研究をなす者多し、而も徒に英雄豪傑の事蹟を誇大して反つて青年を誤る。予は本書が此弊を救ひ最も實着にして有益なるものなるを信じ、秃筆を呵して譯出せり。

序
本書が聊かにも青年諸氏を益することあらば譯者の望は乃ら足る。

明治四十三年十月

秋雨竹窓の下にて

譯者誌す

偉人と修養

目	次
一、堅固なる思想は人生の指針なり。	一
二、精神と肉體。	一〇
三、思想は健康、疾病の根源なり。	二〇
四、恐怖の念は吾人を賊す。	三一
五、恐怖の克服。	五〇
六、感情を制せよ。	六五
七、氣分の統御。	八〇
八、有害なる悲觀主義。	九一
九、快活なる思想の力。	一二二

十、 否定は人をして麻痺せしむ。…………… 一二七
 十一、 肯定は力を興ふ。…………… 一四一
 十二、 理想は力として反映す。…………… 一五二
 十三、 成功と思想。…………… 一六九
 十四、 自信力の影響。…………… 一八七
 十五、 品性建設。…………… 一九七
 十六、 能力磨養。…………… 二〇六
 十七、 美と思想。…………… 二二七
 十八、 想像力。…………… 二二二
 十九、 年齢と活氣。…………… 二二九
 二十、 如何に思想を統御す可きか。…………… 二五五

偉人と修養

マーデン原著
 文學士 藤井黙花譯

堅固なる思想は人生の指針なり

己が未來を思想より、作るは幸か、災か計り知られぬ神
 の手に、浮つ世は新く立てられき思想はやがて運命で
 ふ、神にいつまで時を得て、愛には愛の報ふ可く、怨に怨
 の報ふ可き。

エフ、ホイラー、ウルコックス

幼時是を聞く、昔或人雇はれて船長と爲りしに、全然海
 事を知らず、航海の術、機關に關する技量も無かりし

然かも全船員に注意と命令とを與ふ可き位置に在る。て、彼は先づ従前の如く各自其位置を守れと命じたり。前船長とて又僅かに彼に勝れると云ひ得可かりしのみなりき。巴に海上に出でて彼船長は始めて其船の如何にして進めらるるかを知るの機會に接せり。即ち其甲板に立ちし時、彼は、或は右に、或は左に一個の大車輪を轉ずるの人を見たり。

彼は此人に問ふて、始めて斯く爲すにより航路の、右或は左に定めらるるを知り、前路は凡べて海水のみ、敢へて輪車を左右に轉するの必要なし。帆は風を采みて船を行る事容易なれば、前方に陸地現はれ、或は他船に會し

たる場合に於てのみ是を爲せば足る。

此命令出でて舵機は其人の手より放たれぬ。其結果實に難破より僅かに九死の生命を得たる數人の船員の腦裡に、船を自ら行かしたる愚なる船長に關する記憶を印したるのみなりき。社會は實に斯る愚者の生存を許さず、又何人と雖も斯る愚者たる事を欲せず。

然かし乍ら思ひを潜めて暫く自ら省みる處有れ。吾人は如何なる船舶よりも更らに、精微に且貴重なる或物を支配し命令するの職に在る者に非ざるか。自己の生命自己の精神に注意せよ。自己の進路に對する舵機に人は幾何の注意を拂へりや、或は其行くが儘に行かして、

る無きに非ざるか。憤怒、熱情等の颶風は汝を止まる處無く吹き去らざるか。果して多數者は自己を幸福、平和、成功等の安全なる港灣に導くを得可き船長なりや。若然らざらんには汝は是れ其位置を満たす可き主裁者たるを自ら敢て欲せざる者なり。若汝にして根本的眞理を實現せんと欲し、且自己の善良なる性質を活動せしめんと欲せば、是恐らく汝が常に思考せる處よりも容易の業なる可し。其如何に爲す可きか、且努力を如何の方面に用ふ可きかは、「思想」に關して説く處有らんとする本書の目的なり。

精神が人生萬般の事象を支配するは明かなれども、從來

其力に關しては殆んど思慮せられずして、反つて誤解せられたりき。漸次其屬性を知るに至れるも尙不可變のものとして處理せられ、漸く現代に及びて思想の統御、及之によりて品性の改良、境遇の變更、健康、幸福、成功等を來たす可きの方法次第に深く研究せられ、了解せらるるに至れり。思想統御の訓練の可能は殆んど無限にして其結果は永久なり。然かも自ら勤めて向上の一路に憧憬する者に至りては極めて稀なるを見る。

自己の研究、換言すれば自己思想の統御は、自我の統御の如く重要且高尚なる研究を、他に求め得可きや、思想は感觸し難く、且多數者は從來是が統御に意を用ふる處

無かりしが爲めに此精神的活動の指導は常に困難にして、或は殆んど不可能事なりとの印象を有し、又是を完成せんが爲めには異常なる研究と時間と勞力とを要すと思ひせり。然し乍ら是れ明かに誤想、謬見なり。例へ無智なるも、無修養なるも繁忙なるも、汝は要する處の力を有し時間を有し、手段と方法とを有す。只其最恐る可きは自ら圓滿の境地に進まんとするの意志を有せざるに有り。銳利なる彫刻家の鑿も拙劣なる者にして取らば可憐なる像を傷ふ可く、是を惡漢の手に移さば或は夜盜の具と爲り、殺人の器と化す可し。自己の性質を造り、或は之を傷ふ可き手腕を有せる人にして、幸福と成功とを如何に

して生ず可きかを知らんと欲せざる者は是れ眞に愚者たるを免れず。彫刻家は其手元を見ずして擅に刻刀を下さず、常に其刀の進む處を注意すると同時に全體に於ける完成を顧慮す。彼彫刻家が其理想に従ふて刀を取るが如く、吾人は自己の品性を刻し、境遇を作り、生活を爲す場合に於て將に絶大の努力と注意とを拂はざる可からず。更らに吾人は自己の要する處のもの、自己の得可き處のものを豫知し、勇往其事に當り、是を完成するに至る迄は決して弛緩怠慢の事有る可からず。思想は是實に吾人の生涯を鍛冶する處のものなり、是を以て吾人は思想を有用に費し、最良の方法に従ひて之を

用ひざる可からず。如斯して始めて吾人の意志は鞏固にせられ、自己の決心を實行に移し得るに至る。如何にして此重要且高尚なる事業に従ふべく、其思考の方法を教うるも是が完成は尙今日の青年に取りては困難事たる可し。思想統御の此方面に於ける大範圍は實に新時代に完成せらる可き事に屬す。エム、イイ、カーターが云へるが如く、「若父母及保護者にして思想統御の課程を青年に教訓するが爲めに其全精力を捧ぐる有らんには、新時代の青年を教育するの問題は驚く可く單純となり、地球は今日よりも一層高尚なる人類の住する境と爲る可し。正當なる思想を抱き、其精神を統御し、其誤れるを

避く可しと教訓せられたる兒童に對しては外的權威を要する事益減少し、兒童は純潔なる精神を有するに至る。實に精神的統御は唯一の自我統御なり。是に據りて人は困難、不幸より脱却するを得可し。故に自己の爲め、且社會の爲めに、吾人をして自己の生活力の適當なる理解と統御とより來る可き大なる祝福に關して考察する處有らしめよ。

精神と肉體

精神が肉體に影響を與ふる力は極めて偉大なるものあり、されば常に精神をして其主裁者たらしめざる可からず。

吾人は自己の思想を統御し、抑制する處有らんとするに先ち、思想の如何に有力に、又如何に重要な者なるかを明確に了知するの必要あり。悪思想は吾人を傷け、善思想は吾人を補益する處有るを知り、且思想其物のみ獨り永久性を有し、我運命の主裁者たると同時に、縦へ一瞬の間に起る思想と云へども、又我運命の幾分を決するものなる事に關して、根本的知識を有するの必要あり。

其思想を恰當に統御し指導するは是疑も無く自己幸福の原因を作す所以のものにして、吾人が此天賦の力を誤用するは、やがて自己を破壊し、不幸の谷底に陥らしむるの根原を作るものなり。自己の思想如何によりて幸不幸の別を來たせるは、實に普通世間に於て常に發見し得べきの事實なり。

今や思想其物に關して社會は其本來の價值を、一面物質的に、一面道徳的に認識するに至り、細事に於ては然からざるも思想の力は人事に關して殆んど大自在力を有すと解せらる。其一見奇怪なるが如き結果に關する實際的説明は屢物質的なる且思考力に乏しき人を驚かすものあり。

り、是に對して彼科學的實驗は如斯撲素的思想家の豫期せる處のものを破壊し去ると同時に、其要求を満たすに科學的説明を以てす。

エール大學教授タブリュー、デー、アングーソンは思想或は其活動の結果を實際的に秤量して成果を收めたり。即ち氏は一學生をして其身體の重心が秤皿の中心に合するが如く坐せしめ、是に數學の問題を與へて解釋せしめたるに、其結果彼學生の腦髓に於ける血液量の増加は、身體の重心の位置に變化を來たさしめ、終に秤皿は一方に偏するに至れり。一般に斯る現象は思考の度の強烈なるに従ひて増大するを見たり。同教授は更らに其實驗を進

め、學生をして自ら脚部の運動を想像せしめたるに、其結果として血液は漸次脚部に集中せられ、終に秤皿を他の一方に降下せしむるに至れり。依之氏は純粹に心的活動に據りて肉體の重心を移す事、四インチにして雙手を肩上に擧ぐると等きの事實を發見したり。是等の實驗は單に一學生に就てのみ行はれたるに非ずして、多數の者を驗して同様なる結果を得たり。更らに思想が筋肉を統御し、影響するを知るに足る實驗を行へり。學生十一人の腕力は、平均右腕百十一ポンド、左腕九十七ポンドなり。然るに僅々一週日右腕のみを使用する、特殊的運動を課したる者に就て、其結果を驗するに、右腕に於ては

其平均數よりも六ポンドの力を増加し、運動に預からざる左腕に於ては反つて七ポンドの力の増加を見たり。是最も明かに肉體の運動に聯關せる腦髓の活動は、單に運動せる筋肉のみならずして、等しく他の筋肉をも統御し影響する處有るを示すものなり。實に斯かる結果は純心的活動によりて或個所に血液を送り、神経力を移轉せしむる事によりて生じたる處なり。アンダーソン博士は實に此結果に關して次の如く説けり。

初は自己の筋床ツスルベツトに據りて心的努力は運動に關する有ゆる手段の内最も重要なるものなるを知る爲めに其筋床の上に坐し、而かして舞蹈を想像したるに、假令へ脚部の活

動なく、従つて筋肉運動無しと雖も筋床の脚部に沈むを見たり。是血液が脚部に充溢したるを示すものにして、實際に吾人が舞蹈したる場合の現象と異なる處無し。

サンドーは思想の力關與する處無ければ、如何なる肉體的運動も何等筋肉の發達を助くる無く、僅かなる運動も思想の是に伴ふ有れば、肉體に影響する處極めて偉大なるもの有るを説けり。アンダーソン教授の實驗は實に此説明の眞なるを證するものにして、彼競技或は遊戯等が單に機械的なる運動よりも大に効果有るを語る者なり。博士は云ふ、歩行は腦を勞する者に取りては極めて効力薄き運動なり。是智的問題を解釋する爲めに充血せる腦

中樞より血液を降下せしむるに足らざる自動的運動なるが故なり。急速に達せざる可からずとの思想を懐き、或目的地に向つて急行せば、脚部は爲めに充分の血液を受け、其發達を見るに至る。又鏡面に對し種々なる動作に據る筋肉の變化を注意しつゝ爲す運動は大に筋肉發達に附與する處有りとして知らる。

ワシントンエルマー、デイト教授は此實驗以前に於て手を水盤中に浸し、只管、血液を手部に充溢せしめん事を思考したるに、其結果水盤の水を溢れしめたと同時に、其手部に集められたる血液の増加量を計算し得たり。何人も斯る實驗を最初より爲し得るに非ず。恐らく數十百

回の失敗を重ねたる後に於て成功し得可き處なり。然かも其精神が肉體上の斯る訓練に影響する處有るは疑無きの事實なり。

數年前胃を傷けたるも幸に治癒せる、彼の有名なるポームント氏に就ての經驗によりて、醫師は消化其他の諸官能に關し、低下的或は昂昇的情緒が極めて著大なる影響を興ふるものなることを説けり。突然凶報を受取りたる場合の如き、敏活に胃液を分泌せる小囊フックルズを潰崩發熱せしめて、食物を不消化の状態に存せしむる事數時間に及ぶ如き事實は屢見る所なり。

露の科學家イバン、バプロブ教授が犬に關する最近の實

見は、久しく豫想せられたるが如く、胃液の分泌は、撒爾維亞が分泌せられたる場合、或は食物が胃に入りたる場合に自動的に生起するものに非ざる事を明かに立證せり。反之犬が好餌を得可しと豫想せしめられたる場合には、縦ひ其好餌は與へられざるとも胃液は活潑に分泌せらる。機械的なる刺撃方法も食物に關する快樂の觀念の伴ふに非ざれば終に胃液の分泌を起すこと無し。若肺胃神經にして關する處無き場合には例へ豫想したる美食の快樂或は好餌の實際に與へらるる事有るも胃液の分泌は決して見る可からず。單に機械的肉體的官能と呼ばれたる處のものも尙精神の影響を受くる事、實に斯の如し。

更らに驚く可き實驗の結果はゲート教授に據りて立證せられたり。即ち或心理状態は肉體內に或種の化合物を作る事是れ也。病者をして氷塊を以て冷却したる管を通して呼吸せしめ、其吸入物中の揮發性物質の凝固したるものを、装置せるロヂウムの沃化物と混和せしめたるに、最初は何等辨別し得可き反應を呈せざりしも、然かも病者が怒れる後は五分間にして褐色の沈澱を生ずるを見たり。即ち是情緒に依りて生ぜらるる化合物の存するを示せるものなり。非常なる哀愁(愛兒を失へる母の悲の如き)は灰色、悔恨は淡紅色の沈澱を生ず。此實驗は短氣、怨恨、憂鬱等の情

緒の一般に有害なる化合物を生じ、更らに其或物に至りては極めて有毒なるを示せり。是と同時に愉快、幸福等の情緒は精力を増進すべき細胞を刺撃する滋養的價值ある化合物を生ず。ゲート教授が示せる此奇異なる説明に反駁を試むる者は曰く、是等の色彩は實に是に用ふる化學的藥品に據る處にして、例へ同様なる藥品を以てするも情緒は又他の異なる色彩を生ずるものなりと。

チカゴ及スタンフォード大學教授ジャクエス、レープ氏の實驗は次ぎの事實を示す。思想は電氣と相等しき現象を生じ、其影響を受くるや、生物の微少部は積極より消極に、消極より積極に變化すと。是腦髓よりの電信てふ思

想に關する古代的比喩を一層適確なるものと爲し、且精神が肉體的條件を變化する事可能なりとの概念を擴大するものなり。

思想は健康、疾病の源なり。

精神は吾人に活氣を與ふるも、肉體は益する處なし。

精神の統御が健康と疾病との上に大關係を有するは、既に明かなる處にして、特に科學的實驗に訴ふるの必要なし。即ち日常生活より來る經驗は極めて豊富なる實例を提供す。只此處には醫師に依りて公けにせられたる驚く

可く且興味深き二三の例證を擧げて足れりとせん。吾人は己に久しく因襲に馴致せられて、敢えて思想を疾病乃至死没の原因と思考する事無し。然し乍ら或者は一時の感激の爲めに死する事有り。思ふに是或種の急激にして且強力なる思想が突然身體機關を錯亂せしめ、其運動を停止するに據るものなる可し。恐怖の念は心臟の活動を止め、激昂は又其鼓動を高ふし腦に於ける血管を破裂せしむ。急激に來れる喜悅は血液を腦に充溢せしめ爲めに微薄なる膜皮は破壊するに至る事あり。愛人を失へる悲痛の情は營養及消耗の補給或は普通の心的條件に據る他の肉體的條件の遂行を阻害するに至る。人は自己の肉體

が虚弱なるが爲めに抗拒し難しと思考したる或疾病の爲めに、或は本來疾病無きも疾病有りとするの念、又は悲哀に關する思想の爲めに憔悴して死没する事あり。近時倫敦の新聞紙は傳へて曰く、一日市街鐵道用電線切斷し、街路に電光を放てり、此時一婦人ありて、將に客車に乗んとする場合なりしが、此光景に接して驚愕の餘り終に死せりと。此際何物も彼女に觸れたるに非らず、又何等傷害せられたる處有るにも非ず、只婦人は自己が危険界に在りと思考したるのみに過ぎず。然し乍ら其思想の強烈なりしは比す可き物無き程なりしが爲め、其精神は忽然として肉體より分離するに至れるなり。若然かく容易

に驚畏せざりしならば此婦人は必ず安全なりしなる可し。又或婦人はゴルフ(一種の遊戯)スチックによりて面を打たれ爲めに其頸部を傷けたり。數週にして瘡傷癒えたれども然かも其傷痕の美を損ふ事甚だしとの觀念は、深く其心を閉ざし、終に交際を厭ひ、憂鬱症に罹るに至らしめたり。之が治療の爲めには有ゆる手段を惜まざりしと雖も効果なく、其美を損せりとの彼女の觀念は、凡ての喜悅を奪ひ、其肉體の力を奪ひ、斯くして彼女は病巖に親む身と爲りぬ。彼女の疾病に關しては如何なる醫師も終に何等の肉體的缺點を發見する事能はざりき。是實に思想が完全且健康なる肉體に影響する處有るを説明するも

のにして、若し該婦人が常に懐ける其觀念を捨去るを得ば恐らく其疾病は忽ち快癒せらる可き者なりしならん。恐怖或は悲痛の念は屢數日或は數時間にして頭髮を白ふす。ハラピアのルトツイヒ。マリ、アントネツト、英のチャールス一世。ブルンスウィク侯の如きは是が歴史上に於ける實例なり。近代に至りても亦屢此事有るを聞く。思ふに是頭髮の色素を變化せしむる硫化物が強度なる情緒の爲めに發生するに至るが故なる可し。斯る化學的活動は年と共に漸次に進むものなるも、此場合に於ては思想の爲めに急遽に生ずと見ざる可からず。ロージャー博士は云ふ、肉體組織に多大の影響を與ふる原因の多くは毛

髪の枯死を促進す。特に心を沮喪せしむる情緒、腐蝕するが如き憂慮及び強烈なる思想を以て然りとなす。何等損傷せられたる處無きも、人は大に傷けられたりとの思想を懐くが爲めに死没する場合あり。是屢同僚が、汝は非常に出血せりと語れるが爲めに極度なる驚怖の念に襲はれ、終に死するに至れる醫學生有るは往々聞く處なり。紙を嚥下したりと誤想せる或者は其咽喉の一部に突起を生ずるの恐る可き症状を呈するに至れるも、然かも其誤想なるを知るに及びて、忽ち苦痛を脱するを得たり。其他誤れる信念が非常なる苦痛、時としては終に死を惹起するに至れる實例は極めて多し。

然雖、又一面に於て、疾病も或種の興奮驚愕或は異常なる喜悅に關する強力なる思想の爲めに減退し、癒治する場合あり。今日フロレンのロキア、デイ、ランチに存する彼有名な、るパーセウスの像を將に鑄造し終らんとする時なりき、不幸其鑄造者のブンベスト、セリニは病床に横はり、其の病苦に呻吟せる際、彼が雇傭せる一職工は突然彼に其像の損壞して終に救ふに由なかる可きを告げたり。此時の驚は如何、彼は蒼惶衣を着して熔爐を見るに其鑄金の已に凝結せるを知り、急に樫材を取りて是を爐に投じ、雨中をも顧みる無く激烈なる労働を繼續して、遂に鎔金

屬を又用ふるに堪えしめたり。其事既に了りてサラダの一皿を喫し終りたる後始めて蓐床に歸りたるに、彼の健康は舊に倍し、曾つて疾病に感染せる事無きが如く快く睡眠せり。彼が其像を救はんとする非常に強力なる觀念は單に其心裡より疾病に關する觀念を驅逐し去りたるのみならず、其肉體的條件は大變革を興へ、遂に彼をして全癒せしむるに至れるなり。

ムーア人の主領たるムレト、モラツクに關して次ぎの如き實例を見たり。彼病みて殆んど救ふ可からざる程に憔悴せる際に、其統卒せる軍隊とホルトガル人との間に戦端を開けり。其時彼は病蓐を蹴起して其急に赴き、軍を

督して終に勝利を收めたりき。然かも其事終るや彼は困憊し氣阻みて死没せり。

博士エリサ、ケーンの傳者は云ふ、予は彼を訪ねて精神の力が肉體を支配する實例に關し最も確實なるものを聞くを得たり。彼は予に語りて云ふ、精神は實に肉體を死の手より奪ふの力有り。予が船醫として乗組める或船のカプテンが將に死せんとする時予は敢えて將に死せんとする時と云はんとす、是數日の後には明かに死没すべき最悪なる症狀を示し居たればなり、其船長の死を豫想して、船員の間にも暴動を起すべき徴候有りき。予は是を見て彼が其職に死するの反つて心安かる可きを思ひ、其病

床に就て叫べり。暴動！彼は其死せるが如き昏睡より醒めて、非常に興奮したる態度を以て暴徒の訴を斷じ、是が處罰を令したる後俄然必死の病患より癒へたるを見たりと。

歐洲漫遊の際病臥したるブラジル皇帝ドン、ペドロ陛下は攝政たる内親王よりの海底電信に接して忽ち平癒せられたり。即ち其電文は病帝終生の計畫を遂行する爲めに奴隸制度廢止の法令を發布せるを報せるものなりき。

數年間病牀に親み。殆んど室内をも歩行し得ざるが如き虚弱なる婦人が階上に眠れる孩兒を火中より救ひ得たる力は果して何より來るか。又斯る脆弱なる女子が家具

寢具を火中より運ばしむるの力は何より來るか。何等新なる力の筋肉に與へられ、又は血液に與へらるる處無きは明かなり。然かも普通の状態に於ては到底爲し能はざる處のものを爲すを見る。是危急の場合に臨みては其愛兒の危険、其家の燒失等は彼が當面の急にして全然自己の虚弱なるを忘れ、一時彼は其爲さんと欲する處のものは必ず可能なるべきを堅く信じて是れを行ふが爲めに其精神的状態は變せられ、縦ひ其筋肉と血液とは變化する處無きも、其場合に要せらるる精力の出づる有り、筋肉又其力を供給したるものなり。之を要するに或事を爲さんとする能力に關する信念其物が此場合の第一必要條件

たるなり。火災、危険、興奮、生命財産救護の必要、肉體的虚弱に關する一時的忘却等の條件は其場合に適當する状態に精神を活動せしむるに缺く可からざる者なり。肉體を支配する精神力に關する證左は數多の方法によりて吾人に呈示せらる。疾病を治癒するに精神の影響する處極めて重大なるは、一般に醫師の承認する處にして、藥劑乃至治療的手術以上の効果を顯はす實例は醫學的方面に於て極めて豊富なり。ウィリアム、オスラー博士(エドワード七世陛下の命によりてジョン、ホプキンス大學よりオックスフォード大學の帝室教授となりたる人)は米國百科全書中に次ぎの事項を述べたり。

心理學的の方式は縦ひ全般的には承認せられずとも、治療術上に重大なる地位を有するは明かなり。即ち精神を輕快ならしむるに足る信仰を抱くや、血液の循環を自由ならしめ、且其神經を平靜にし、爲めに治療上に偉大なる効果を示す。神氣沮喪或は無信仰は屢強健なる者をして忽然死没せしむ。信仰は能く一片のパン、一匙の水を以て最良なる藥劑も何等の効驗無しと認められたる患者をして快癒せしむる場合有り。要するに醫術の根底は其人の信用せらるると、藥劑及彼が執る手段とに存す。又ヨーロッパ大學教授スミス、エリー、ジュリツフ博士は同百科全書に於て次ぎの如く述べたり。

最古且最新なる治療的能因^{エッセンス}が暗示たるものは疑ふ可からず。信仰より來る治療の力は決して或宗派、或階級、或制度等特殊なるものに限らるゝ處無し。神を信じ、偶像を信じ、醫師を信じ、或は其他内外より來る信念の如きは肉體的官能に對して精神的影響を與へ、疾病治療の上に偉大なる治療的價值を示すものなり。是等信念は決して山岳を移し得るものに非ず、肺患を治し得るものに非ず。失脚者を歩ましめ得るものに非ず。然かも種々なる形式による暗示は凡ての治療的手段に最も強力なる助けとなる處のものなり。(彼催眠術家が有意的に爲す暗示に關しては此處に細説の餘裕無し)人類は大に事物を輕信し易

きの習慣有り。是信仰の必要あり、又信せんと欲する處有るが故に信ずる也。治療上に於て用ひらるゝ暗示は、善惡何れの結果を生ずるにせよ共に異常なる力、影響を有するものなりと。是に依りて見るにシェリッ博士は挫骨接合の場合に於ても患者の精神状態は非常に影響する處有るを認む。勿論此患者の精神状態が呼吸、同化、消化、排泄等の諸官能に關係有るは明白なる事實なり。確固たる決心は氣候及適當なる衛生的條件と共に、縦ひ精神及神経系統が激烈なる感衝の爲めに不活潑と爲れる場合にも、尙肺病の初期に於ては其快復を助くる事大なり。

ゼームス、ワイ、シムリン氏は云ふ、肉體に對する偉大なる精神の影響を等閑視したる場合には醫師は是自己の技術の全般を知らず、且是を行はざる者なりと。

恐怖の念は人類を賊す

疑惑の念は我心の叛者なり。勝ち得べき善事をも失はしむ。
沙 翁

人の生命を威嚇する事の最も甚だしきは恐怖の念なり。恐怖は品性を墮落せしめ、希望を破壊し、疾病を惹起し、幸福を得ざらしめ、成功を妨ぐ。生理學者は此思想が同化作用を廢棄せしめ、營養を斷絶せしむるが爲めに、血液の減少を來たすを知る。心身の活力を減じ、成功の有

ゆる要素を殺害する所の恐怖は實に青年の幸福に對する致命症にして、老者には最も恐る可き隨伴者なり。活氣は其恐る可き一瞥見の下に逃れ去り、爽快は是と共に存するを得ず。

博士ウイリアム、エッチ、ホルコムは云ふ、人類の上に甚だしき不幸を反映する有ゆる病的、心的條件中に就て其利害の最も甚だしきものは恐怖の状態なりとす。此感情には驚駭、恐怖、戰慄等の極度のものより、下りては邪惡に關する理解より來る輕微なるものに至る迄、其間多數の程度と階級とを存するも是れ盡く一線上に位置したる同種のものたり。即ち是れ神経系統の動作力により身

體組織の中に多くの病的症狀を生ずる生命の中心に於けて麻痺的の印象なりとす。

ホレース、フレッチャー氏は云ふ、恐怖の念は恰かも呼吸器内に入りたる炭酸瓦斯の如し。即ち心的、道德的及神經的窒息又時としては死没も是が爲めに起る。此處に死と云ふは精力の死、組織の死及其他凡べての發達に對して云へるなり。

然し乍ら吾人は生れながらにして此恐る可き悪魔即恐怖の領土に住む。兒童は日として是を警告せられざる無く念頭片時も恐怖の觀念を斷つ事無し。恐怖は人を毒し、人を傷ひ、人を殺す、是に注意を拂はざらんか更らに恐

る可き事件の忽ちに壓迫し來るは疑を入れず。人多く無害なる動物昆虫を見ても幼時より傷害を與ふ可きものと語られ居るが爲めに、何等かの悪感を覺へざる者無し。何者の残忍事と雖も鋭敏なる兒童の腦裡に戰慄す可き恐怖の映像を刻するに過ぐるもの無けん。彼は年と共に其觀念を深く印するに至り、終に其全生涯を覆ひ、喜悅と幸福との光明は此陰雲の爲めに滅せらるゝに至る。

オーストラリアの一記者は云ふ、兒童に對する最も不幸なるものの一は、其母が常に神經的恐怖の念によりて苦めらるるの一事なり。彼は兒童を驅りて恐怖の念を増さしめ、怯懦たらしむるに至る。恐怖の背景は是不幸を豫

想するの習慣或は本能なり。自己既に活動せず、又兒童をして活動せしめざる母は是れ徐々に其効果を示す可き毒藥を以て兒童生涯の盃を苦くする者なり。今日多數の兒童は其肉體方面に於て怯懦に、虛弱に、受動的に、且不活潑なり。是實に彼等兒童が自ら或事を爲し、或は爲さんとする場合に、起り來る可き危険の程度を了知するには余りに幼弱なる幼年時代に於て、注入的に教授せらるゝ處あるが爲めなり。更に其母にして兒童に對する自己の責任の重大なるを知り、彼を危険の地に寸時も向はしむ可からずとの念慮よりして徒らに憂慮し兒童の勇氣、忍耐、自恃、克己等の諸徳を増進す可き肉

體上の運動を禁止するの愚を爲すものあり。リノ、フェリアニ博士は云ふ。氏は二拾余年間犯罪心理學及兒童心理學の研究に従ひ、屢々次ぎの如き事實に遭遇したり。即ち病的に怯懦なる兒童の八割八分は心理的及生理的衛生法の常識手段によりて治癒する事を得たり。此衛生法の要因とする處は健全なる勇氣によりて鼓舞せられたる暗示なりと。現實的事物に關する恐怖の念を兒童に注入するを以て満足せず、母或は保母の如きは、可憐なる兒童を従順ならしめんが爲めに之を威嚇するの手段として、妖怪、幽霊等の假設物を發明す。更に又兒童をして就眠せしめんと

して或は「早く眠らぬと狼が来る」等の類を以てす。若
此場合狼の来る事が事實ならんには普通の成人と雖も如
何してか安眠を貪り得ん。若父母にして、暗夜も晝間と
何等異なる處無きを丁寧兒童に教諭する處あらば、暗黒を
恐るゝの兒童は有る可からず。然かるに若是に反せば兒
童は遂に暗黒中に彼が想像力によりて現出し得る限り
の食人鬼、見越人道、三目小僧等の妖精在りとするに至
る。

母は其兒童を窘塞せんが爲めに精力を消耗する事多し。
即彼等は兒童にして其面前に在らざらんか、寸時も安心
する處無し。彼は幾度と無く其兒童の樹上より墜落し、

或は負傷せるを思はざりしか。幾度か其兒童が水泳の爲
め河海に至りし時、其溺死の光景を想像して戦慄せざり
しか。或は野球の競技より挫骨して擔はれ歸る兒童を幻
に見ざりしか。斯る事件が實際に生起せざりし場合に於
ては、其杞憂を懐きたるが爲めに生活力と肉體的調子と
を降下せしめたる心勞は果して何を以て補はる可きか。
如斯徒爾なる想像は多數婦人をして其年齒以上に老衰せ
しむるものなり。

常に恐れ、常に憂慮する母は兒童を驅りて又恐怖の内に
陥らしむ。即ち其兒童に對して常に恐怖に關する新奇且
不謹慎なる對象物を暗示するが故に、終に兒童をして此

世界は恐怖と憂慮との恐る可き重量の下に壓せられたるものなりと解せしむるに至る。例へ如何に花やかに且幸福なるが如き集會に於ても吾人は其一人に就て問ふ處有らば容易に何等かの形式を取りたる恐怖が其人の心理に潜めるを發見し得可し。變事、疾病、貧窮、死亡、其他恐る可き不幸等に關するの恐怖は、其外貌の如何に拘らず不斷に人心を去る事無し。人類は實に此恐怖に關する曖昧に且模稜なる或陰影に追はれて休息を得る無く匆忙として其生涯を了る。

人類は常に何事かの生起す可きを憂慮するが爲めに其生命を縮む。家族は僅少の快樂をも取る能はず、旅行をも

する能はず、新聞雜誌をも購讀する能はず、必要なる休養をも爲す能はず、更に彼等は其衣服に於ても、其食物に於ても、修養、樽散の手段に於て能ふ限り節儉し、貯蓄せざる可からずとす、是其次年度は大に生活上困難なる可しと爲すが故なり。或者は云ふ經濟界に恐慌起る可し、多數の兒童は疾病に罹る可し、氣候は不順なる可し、收獲は豫想外の失敗に了る可し、彼事業は成功せざる可し、吾人は如何なる事の起り來る可きかは實證するを得ざれど然かも吾人は應に不時の不幸の爲めに大に準備せざる可からずと。如斯不幸來る可しと爲す悲觀的豫言者の爲めに多數の家族は其生命を殘害せられ、時として

は全く廢滅せらるゝ場合あり。
 斯る憂慮を斷たざる、且鄙吝なる生活法は青年の發達を
 阻害し、且現在と等しく其未來にも暗影を投ず。例へば
 一兒童が將に就學せざる可からざる年齢に達するも種々
 なる事情は是を妨げ次第に其年齒を加へしむるに至る。
 然かも其父母は自ら誓ふて曰く、今や如斯臨時費を給す
 る能はざるが故に兒童は明年を待ちて就學せざる可から
 ず。明年は又曰く、彼は今暫く猶豫せざる可からずと。
 如斯して兒童の就學の期は遂に失せらるるなり。
 何人と雖も適當なる經濟と節儉とを破る事の不可なるは
 明かなり。然かも茲に思はざる可からざるは、恐怖即ち

何事か生起すべしとの念慮は享樂、教育、修養、旅行、
 讀書、其他無邪氣なる快樂等に預かる事を猶豫せしめ、
 其感官を硬化するに至らしめ、審美的能力を減弱せしむ
 る處のものにして應に避けざる可からざる精神的疾患な
 る事なり。
 憂慮に皺める容貌、白髮、不運に勞れたる表情の如きは
 眞に憫む可きものなり。多くの皺の一線も、多くの白髮
 の其一毛も實際の疾病に據りて生ぜられたるには非ずし
 て、彼が毛髮を洒し、其顔面に殘忍なる皺を刻し、活氣
 を奪ひ、人生の快樂を去らしめたる所のは、來らざ
 りし不幸を渡らしめんとして架せられたる憂慮てふ橋梁

なりき。實際に吾人に對して生起する悲痛、艱難の如きは極めて稀なり。更に是を以て吾人が常に煩惱し憂慮して生起す可しと爲す處のものに比するに殆んど云ふに足らざるを見る。

徒らに精力を消費せしめ、生活を難からしむる災害豫想の習慣は極めて有害なるものなり。誠に何物か生起す可しとの(實は起り來らず)恐怖杞憂の爲め消費せられたる心身的精力に據りて人類が爲し得可き事業の量を思へ。不幸災害に臨める場合に如何の手段を取らんかと豫め計畫するが爲めに費されたる時間を思へ。

○若吾人にして全然此想像的なる煩悶より脱却するを得ば

吾人の生活は無限に幸福に、且健康なるものと化す可し。吾人の最大最要なる品性建設てふ事業は、種々なる形式を取りて現出する恐怖を原因と爲す不幸なる結果を全然除去し、根絶し去るにあり。何人と雖も常に恐怖の念に囚へられては、到底自然的に健康なる、光輝ある、力ある且調和的生活を爲す能はず。何人も恐怖の萌芽を破壊し滅絶する無くしては幸福と成功とを望む能はず。恐怖の念を絶たんか、世界は忽焉として一變し、光榮あるもの善良なるものと爲る。實に此人類共通の頸敵たる恐怖を征服する事は各個人の義務にして、且他人特に青年を怪物の手中より救ふは相互の義務なり。幸にして世の思

想家研究家は、此事の遂に爲され得べきを證す。是實に來る可き時代の青年が有ゆる恐怖より脱し、眞の幸福を旨指して明確なる知見に従ひ、牢固たる信念を以て最後の目的に進むに至る可きを示す吉兆を語るものなり。

恐怖の克服

人類の主敵たる恐怖の思想は思考の習慣より排翦するを得べく。全然根絶する事を得べし。然かも抑壓は得る處無し。

ホレス・ブレッツチャール

恐怖の念を克服するに先立ち、吾人は其本性を了解せざる可からず。艱難は是れ想像的のものにして、單に是を思考するに據りて吾人は恐怖の念を懐く。此處に吾人が

發黃熱に關して恐怖の念を抱くとせんに、吾人は是れ其病氣の爲めに感ず可き苦痛を恐るるなり。殊に其必然的なる終末を恐るるなり。吾人が未だ其疾病に罹らざる間は吾人は疾病と全然無關係の位置に有り。既に其病氣に染むも吾人は決して直ちに死したるに非ず。又必ずしも死す可しと決定せられたるに非ず。此場合吾人に對して存する處のものは實際に於て苦痛と肉體の衰弱とのみ。恐怖戦慄の状態は病者を驅りて一層不愉快ならしめ、其病症を進ましめ、終には致命的結果を來たさしむ。是れ病者によりて其病毒は單に萌芽時代に過ぎざるも尙屢致命的なるものなりとして恐怖せらるるが爲めなり。病毒

の顯微鏡的實驗の結果に據るに其萌芽は決して規範的な健康に、且是を恐るる事無き人に對しては何等影響し得ざるものなり。

ニューオルレアン地方に發黃熱流行せる場合に、此病氣の傳染性のものなるを醫師が確定せざりし前一日、或る地方より來れる若き女教師はナチエツ、ミスに到着したりき、此時彼女は既に大に發熱し居るが爲め、醫師サミュエル、カートライト氏を迎へたり。氏はウイリアム、エツチ、ホルコム氏の言に従ひ其旅館の諸員、下宿人等を集め一場の注意を與へたり。

彼若き婦人は現に發黃熱に犯されたり、然かも是傳染性

のものに非ざるが故に何人も感染の憂無し。若諸君にして予が忠告を聞くなれば諸君は一大恐慌より此都市を救ふを得可し。此恐慌は是實に傳染病の温床たるが故に、此病氣に關して何事も語られざらん事、即ち全然是を知らざる態に有らん事を願ふ。此家の婦人をして彼女が看護に當らしめ、花を生け茶菓を供し、凡べて危険の念を起さしめず、日常と異なる無く行はしめば。斯くせば恐らく彼女の生命を救ひ、併せて多數の都人士を救ひ得可きなりと。

此醫師の忠告は只一人其旅館の最も距りたる室に潜みて自ら交通を遮斷せる婦人以外の凡べての人によりて遵守

せられたり、彼若き女教師は終に全癒し、其他此旅館に寓せる者は、恐怖に襲はれたる一婦人の外盡く安全なりき。

ホルコム氏は云ふ、偉大なる名聲と磁氣的力とによりてカートライト氏は其四周の恐怖の念を散せしめ、且其傳染病を防げり。此恐怖を去るてふ原理の偉大なる評價と巧妙なる適用に對して——肉體的條件を支配する精神及思想の力、人類の知覺力の上に覺醒の曙光を投ずる力——彼は大勇者或は政治家に對して吾人が與ふる處のものより更らに偉大に且高尚なる紀念碑を建設せらるるの價値ありと云ふ可し。

人は高所の狭き道を行くを恐る。然し乍ら、同じ狭さの場所も是を地上に劃して行かしまれば何人も平均を失して墜落するの恐無く、完全に其範圍内に歩するを得。此場合に於ける唯一の危険は實に墜落を恐るるの念なり。確固たる信念を有する人にして始めて杞憂を抱く無きを得。彼は危険に關する豫想的の思想の爲めに、其心を領せらるる事無く、其肉體的精力を完全に統御するを得。輕業師は偏に觀客に對する演技を遂行する爲めに其恐怖の念を打破す。勿論特殊的演藝に於ては筋肉、視覺及判斷の發達を必要とすれども、然かも之が第一の必要條件は無恐怖の思想なり。

暗室裡に兒童を戰慄せしむるが如き影像も、其父母に對しては實は存せず。兒童にして怪異妖邪は眞に存在するものに非ざるを了解したる場合には其恐怖の念は閉止するに至る。都會の兒童にして曾て綠草の上を歩みたる經驗無き者は芝生の上を歩するに恰かも鐵針を踏むが如く極めて細心に、恐怖の念の斷へざるを示す。是れ何等恐る可きもの無きも、然かも兒童は危険の存する有るが如く思考するに依るなり。一度危険に關する信念の消滅するや、恐怖は直ちに消滅す。成人に於ても亦習慣、種族的思想、及少年時代に於ける誤れる訓練等の容易に脱却し難くして兒童と同様なる心的状態を示すもの有るを見

る。若吾人はして一度恐怖は單に想像に過ぎず。只吾人の意識内にのみ存在を有するものにして何等傷害を加ふる力有るものに非ずとの信念を起さば其利益する處幾何なるか殆んど知る可からず。

此處に最も普通なる恐怖、即失職てふ事ありとせんに未だ、失職の事無きに人は先づ是を憂ひて自ら其生活に疲る。彼等は其職業に従へる間は應に此の苦む可き事有る可からず。何等の危険事有るにあらざるが故に彼は其現在の状態に將に満足するを以て當然とす。若一度失職せる場合には、過去を悔むも既に業に遅く、其悔恨は純乎たる徒勞に屬し何物も得る處有る可からず。是徒らに將

來に努力す可き精力を空費するものなり。又第二項の職業を得んとして煩悶するは又全く徒事たるを免れず。如何なる境遇に於けるも、特殊の煩悶中正當なりとせらるるの時ある可からず。是其煩悶の對象は常に未來に於ける想像上のものなればなり。

吾人が有ゆる恐怖の念を克服せんとする場合に於ては各人は其論理的結論に従ひ、然して自ら想像以外に恐怖なるものの存せざるを信せよ。其恐怖す可き事件が未來に生起するや否やに關する恐怖は是れ徒らに時間、精力、肉體的及精神的力を消耗す。或物に關して煩悶せざる可からずんば應に煩悶の結果の恐る可きを煩悶せよ。

恐怖すべき處の物は只自己の想像内に存せるのみなるを自覺し、其精神を練り、恐怖に關する一切の暗示を除去するに至る迄、且は凡べての然かき思想と相争ふに足るに至る迄は、決して其精神を弛緩せしむ可からず。是實に不斷の注意と活潑なる心的努力とを要す。凶兆或は煩悶に關する思想が暗示せられたる場合には決して是を等閑に附して愈大とならしむる可からず。更に自己の思想を改めて、其反對の方向に向はしむるに勉めよ。若恐怖が個人的失敗に關するものならんには、自己の極めて弱少なる事、又其事業に對して準備せる處の欠點多かりし事、或は其失敗に終る可きは當然なりし事等に頭腦を勞

するを廢し、自己の才能有り、力量あり、是と類似の事業に經驗有り、又自己が過去の經驗を如何に利用せるか等の事を思ひて、事に勇敢に當り、更らに亦大なるものに對して準備する處有れ。實に人をして益々向上の域に進ましむると否とは此態度を取ると否とに存す。快活に、希望有り、確信ある思想によりて吾人は恐怖の念を去るを得。是を日常生活の上に適用して吾人は最初陰鬱に且心氣を沮喪せしむるが如き事物に注意せざるを要す。思想の流れを轉換するは容易ならずと雖も屢好んで人の注告を聞くは大に得る處有り。精神の集中を要する或事に其心を變ずるは屢轉轍器たるの効果あり、或好

體或は愉快なる事件は惰氣に満ちたる注意を新にし興味有る或は大に好體なる書籍は之を注意して披閱せば大に活動の元氣を興ふるものなり。最後に、有ゆる恐怖の歸趨する處は死の恐怖なり。かるが故に恐怖よりして脱却す可き手段に關して論ずる處有る人は特に此根本的形式を論ず。恐らく死は一個の神秘なる可し。然かも例へ其死の光景は如何なるものにせよ是を論理的に解剖せば其恐怖の念を去るを得可し。特に生命なき肉體を嫌惡す可き、且恐る可き物象と爲すの念を去るを得可し。吾人はヒンドー人が野獸の肉に對して有する感情を奇なりとす。吾人が屍體に對して有する恐

怖の念は恰かも彼等が野獸の死屍を恐るるに等しく愚なりと云はざる可からず。若し吾人にして此恐怖の念を去らんと欲せば、自己の恐怖す可しと爲す事物に敢へて當り、常に人の忠告に聞き、自任して勇者たれ。ホレーズフレッチャー氏は云ふ、病院に於ても、若死屍に關する不合理的なる恐怖の念を懐く者有れば予は常に是に接して習慣を作れと忠告せりと。

タブリエー、イー、エッチ、レッキー氏は云ふ、墳墓の彼方に存するは何ぞや。墳墓其物は是吾人に取りて何等の物にも非ず。狭き土地、陰鬱なる裝飾、衰壞の隱所是等は生者、然かり單に生者のみに知らる。然かるに想像

より得たる幻影を追ふて、人は老、病の過程を思ひ、遂に暗所に埋めらるるに至る可き死を自ら意識上に描出す。其心裡よりして此幻影を排除するに努力せよ。是實に死に關する恐怖の根底に横はり、且其恐怖の念を強ふする處のものなり。若吾人にして眞に了知する處有れば、墳墓も亦何等の神秘を藏せざるを知る可し。吾人は自己の癡壞したる肉體の運命に對して全然顧慮するの必要無き事、恰かも理髮者が刈り取られたる毛髮の如何に爲り行く可きかに就て敢へて心を勞するの要無きと等し、其癡乘せられたる肉體が根本的原素に分解せらるるとせられざるとに論無く、敢えて想像力を用ゐて其腐敗の過程に

注意するの必要を見ず。
恐怖の念を克服する手段は其如何なるものたるを問はず
品性建設に極めて重要なり。此品性建設の努力は必ず應
酬せらるる處あり。若此建設にして終らずんば、精神は
其本來の境地を占むる能はず、従つて吾人は天賦の領域
に立ち、漸次究竟目的の完成に進む發達と向上とを得可
からず。

制情

憤怒と煩悶とは人を萎縮せしめ絶望せしむるのみならず
す屢々人を殺す
ホレリス、フレッチャー

恐怖は吾人を傷害する唯一の情緒に非ず。怯懦なる人物
は凡べて普通ならざる且紛亂せる感情の爲めに其生命を
危地に置く者有るも、剛健なる人は傷害せらるゝ處少し
激烈なる憤怒の發作は腦溢血及死を惹起し、悲哀、嫉妬
憂慮の如きは狂氣の原因なるものとしと知らる。斯の如
き感情は其理性を傷ふ處極めて大なり。
悲哀は人を傷ふものとして最も能く知られたる感情の一

なり。コレギオは今日ドレスデン美術館の一重寶たる繪畫に對し僅かに四十デユカートを受け、其煩悶の爲めに死せりと傳へられ、キーツは余りに激烈なる批評を受けて死せりと云ふ、其他失戀の爲めに悶死するに至れる若き乙女に關する實例の如きに至りては決して少小に非ず。生起する事余りに急激なる場合には喜悅の情も亦人を殺す事有り。新聞紙は屢久しく行衛不明なりし愛兒の突然歸り來りしが爲めに其老父母が驚喜の餘り死したるを報じ、或は大なる幸福を得たるが爲めに死せる者有るを語る。巴里に於て或人が自己の有する彩票番號が當籤したるを確めて其喜びの爲めに死せり。

例へ其感情は人を倒すに足る程強烈ならざるも尙其結果は有害なるものありて存す。憤怒は食欲を減退せしめ、消化を妨げ、數時間乃至數日間其神經に安靜を與へざらしめ、爲めに肉體的組織を亂し、其反動は又心的若くは道徳的に波及す。憤怒は美しき面をも忽ち厭惡す可きものに變するが如く、其全体的性質を瞬時に變化す。是を以て母の怒りは其鞠育せる兒童を毒する事大なり。極端なる憤怒或は恐怖の情は疽血症を生じ、又或は時として嘔吐を催さしむ。

嫉妬は肉體の全組織を亂だすが故に、健康、幸福、成功等に對する頸敵の一なり。嫉妬の犠牲と爲れる者は、屢

其原因が撤去せらるるに至る迄は、其健康を失し、殺人を敢てし、自殺を企て、遂に狂人と爲る迄に精神的に墮落するに至る。激烈なる嫌悪の情は屢々消化、同化の作用及び精神的平和を破壊するのみならずして全然其品性を墮落せしむ。

肉體に及ぼしたる是等の結果の一部は感情の爲めに肉體に形成せられたる或化學的産出物に負ふ處有り。醫師は云ふ、其産出物は有毒なる蛇の毒液と類似せるものにして、其毒液は恐怖、憤怒等の影響を受けて分泌せらる。蛇は其毒液を貯ふるが爲めにサックを有すれども、吾人は然らざるが故に、是を除去し排棄せんと努力するにも拘

はらす身體の全組織内に擴散し其害毒を蒙ると。

何人よりも情緒研究に造詣深かきエルマー、ゲーツ教授は云ふ。

「悲衰、苦痛、憂愁等の感情は、肉體的分泌、排泄の供用に影響す。如何となれば各人皆必ず是等沈鬱的感情の發作せる場合には呼吸作用減退し、血液の循環は阻害せられ、消化作用は不活潑となり、其顔面は蒼白となり、眼は光澤を失ふ、」

種々なる手段と精巧なる機械とに依り、其衰弱點、反動期等を驗して以てゲート教授は、人が沈鬱的感情の影響を受けたる場合よりも幸福なる氣分の影響を受けたる場

合には、一層大なる筋肉的、知的及有意的活動を爲し得るものなる事を確認せり。
 ゲート教授曰く、肉體組織は其組織衰耗の變形的產出物を排除するの努力を爲す。かゝるが故に切實に悲哀を感じたる場合に涙の分泌せられ、又突然恐怖の念に襲はれたる場合に腸部移動し、腎臓の活動するに至る事、又其念の永續したる場合に扁身冷汗に被はるる事、及憤怒せる場合に口苦味を覺ゆる事等は是硫化アンチ酸鹽の排泄に負ふものにして怪むに足らず。恐怖を感じたる場合の發汗は快活なる際の發汗に比すれば化學的に異なる處有り又其臭氣を異にす。

肉體的組織中に起る毒物の部分的排泄を指示せる後、更に教授ゲート氏は説きて曰く、不用なる產出物の排泄が悲哀苦痛の感情に依りて阻害せらるるは種々なる方法により之を知るを得可し。沈鬱的感情は直接に是等の全毒物を増加す。之に反して愉快、幸福等の感情が作用せる間は沈鬱的氣分より來る有毒なる結果を止め、且肉體的細胞を作り、生活力を貯蓄し、營養的組織を生ずるに至る。

以上の事實よりして吾人は價值ある智識を演釋するを得可し。即ち悲哀憂愁等を感じる場合には其分泌せらるる毒物を速かに排泄せんが爲めに有意的に大に努力して、

呼吸、發汗、腎臟の作用等を敏活ならしめざる可からず
 汝悲哀を感せば田野に有りて發汗するに至る迄努力せよ
 水浴して日に數回皮膚より分泌せられたる排泄物を洗ひ
 去れ、更らに劇詩、美術、歌謠等幸福なる且愉快なる感
 情を演釋す可き有ゆる方策を用ひよ。如何なるものにせ
 よ悲哀の情を永びかしめ、昇昂せしむるものは最も害あ
 り。幸福は精力を増し營養を進め、長壽を得るに於て目
 的と云はんよりも寧ろ手段たるものなり。情緒及其他の
 感情は人生に快樂の存するを知らしむ。是等感情の科學
 的研究及合理的訓練は精神を一層巧みに且有効に用ふる
 の術に關して重要なる種類に屬す。適當なる訓練に據り

て沈鬱的情緒も實際に人生より排除せられ得可く、且善
 良なる情緒は永久的に不活潑より醒め來る。凡べて是等
 は極端に樂觀すべきものなり。
 悲痛の念を日に月に抱擁するは是自己に對して罪惡を犯
 すものたるは勿論、自己に應接する他人に對しても罪惡
 を犯せるものなり。此事たる何人に對しても些の得る處
 無く、此念を抱ける者は常に不幸を感ず可し。死者或は
 失踪者は不斷に哀悼せらるる事によりて決して快樂を得
 るものに非ず。且是等哀悼者と同棲する者は凡べて憂愁
 の情氣によりて沈鬱にせられ、傷害せらる。快樂と慰藉
 とは其源を離れ吾人の生活より脱去するに至る可し。何

故に人は一度享受したる愉快の記憶の内に生存し得ざるか。此記憶の内に住するは寧ろ大に自己及他人を此愉快の供給無きが爲めに悲惨なる者と爲すに勝らずや。若此處に端西より歸來せる旅人有りて、其絶景の地に永住し得ざりしを悔ひ、爲めに憂愁の情を抱くも人は彼が一度其經驗したる絶景と愉快とを語る場合には彼の眼は輝き、其舉動は活潑と爲るを見る可し。

此點に關してホレース、フレッチャー氏は云ふ、人が死する場合の如き別離は愛人を知れるの特權に比して重要ならず、且又評價と感謝とは常に不可避的變化に關する後悔の念に勝る事を促す可し。

普通死と稱せらるる別離に對する態度は、次ぎの如き思想を誘致し、且表白を爲さしむ。行け、吾が愛人よ、自然の過程が示す有ゆる變化の結果なる一層善良なる状態に入れ、其境地こそ予も亦追従すべき所なり。予が得たる幸福は實に汝に待つ處多かりき、予が愛は其幸福を以て祝福せられたり、汝が予に對して殘せる處のものは現在に存し更らに又永久に存す可し。

憤怒は多數の形式と原因とを有す。然し乍らホレース、フレッチャー氏が述べたる如く、其憤怒の根源は主として恐怖に有り。人は其肉體的損傷、或は物質的利益の喪失、或は已に享受したる祝福の喪失、さては或者が言語

の上に於て、若くは舉動の上に於て爲したる事の爲めに、自己の名譽を毀損し、友誼を破るに至る可きを恐るる處よりして怒る。斯かるが故に自信有り沈毅なる人は決して怒る事無し。彼は譬ひ他の者が全然敗亡し盡くす可き苦痛と試みを受くるも終に憤怒の情に左右せらるる事無し。普通人の容貌は、かゝる場合に於て最も明白に内心のかたちを示し、且心身上の調和を亂し、更に再び是が平靜に復するに長時間を要す。

自制克己が憤怒の情を抑止するは明かなり。偶然の事變及其結果を判する上に於て論理と熟慮とは自制克己に資する處有り。憤怒の情を惹起する刺撃物に關しては、先

づ其何物なるやを思ひ、而かして是が爲めに自己の氣分を亂だすに至る事の如何にも愚なるを斷せざる可からず。若し人絶對に自己及自己の名譽に關して確信有らば、誹謗は是れ虚を吠ゆる痴犬の聲、或は全然自己が了解せざる外國語を聞くと等しかる可し。是が爲めに自己に何等の變化を受くる事無く、是が爲めに自己の變改せらるる處有るなし。これを彼ミラポールの取れる態度に見よ、彼はマルセーユに於て演説せる際証告者、虚言者、刺客、惡漢等の嘲罵に浴したり。此時彼は云ふ、諸君子は暫く是等活潑なる人々の勞れ盡すを待たんとすと。或者が誤りを爲せるが爲めに是を怒るも、得る處有る可からず。

要するに自己の精力は一時的氣分の發作の場合に消耗せしむるよりも、更に一有利なる方面に用ひざる可からず。

憤怒の原因は是を驗するに多くは極めて平凡なるを知る短氣なる者は異常なる事件には直ちに其事に着手せずして明日に謀らんとす。今日に於て明日の事を辨するが如き習慣を作れ。斯くせば其憤怒の情は最小量に減せらるるを見る可し。全般的に樂觀主義を守れ。特に相接觸する人々に對する愛の思想に關して之れを守れ。然らば汝は彼等を容易に怒らざるに至る可し。嫉妬と嫌惡とは右と同様なる心的態度を取り得る迄に修養せば之を去るを

得可し。自己の幸福を破壊し、生命を危険に爲すが如き感情を抑制す可きものは如何なるものもこれを用ふるによりて、自から自己の思想及行爲が次第に此惡性質に遠ざかるに至るを發見す可し。古昔エドッタータス是を行ふ、其云ふ處を聞くに。

汝が怒らざりし人を數へよ。予は日毎に怒りしも意を用ふる事漸く久ふして漸次其度を減するを得たり。若し汝にして一ヶ月の間全く怒らざるに至らば伏して神に謝せよ、と。

氣分の統御

萬事が吾人に取りて困難と爲り行ける場合、凡ての事が吾人に反對するが如き場合、吾人が諸方面に失敗せる場合、前途暗く希望の光無き場合こそ將に吾人が自己の力量を試むるの時なり。若身に何等かの特長有らんか之れやがて汝を逆境より救ひ出す可きものなり。事情境遇の如何を顧みずして活動を試むるは是其身が成就⁷⁶す可き能力の尺度なり。

朝來愉快なりし身が何等かの不快事に遭遇し其元氣を失へる場合には、直に如何なる事件にも自ら當らんと決心

す可し。汝は將に其特別なる日を生涯に於ける安息日と爲す可し。然らんには、恐らく其日失敗し損失を招くに反して少くとも汝が元氣沮喪したらんよりも殆んど無限に多くのものを成就するに至る可きなり。

人は本來怠惰なる動物なり。縦ひ當面の事なるも其發生せる事件が困難なる場合には之を逃れ之に接せざらんとするの念極めて強し。是決して自己の幸福を増し。自己の足跡に追従する悪龍を仆すの道にあらず。汝の事業より脱し、或は避けんとする事勿れ。障害を避けずして是を打破せよ。彼悪龍の頭を捕へて是を殺れ。

フランク、シー、ハドックは其著「意志の力」中に云へり。

憤怒、嫉妬、神氣沮喪、煩悶等は永久に吾人の敵にして將に權能有る意志に據りて心裡より消滅し去らざる可からず。是等は皆生理學的惡魔たるものなり。是は單に心を亂だすのみならず彼有毒なる且偏僻なる細胞を發生し以て其肉體を損じ、更らに又血液の循環を阻ぐ。是等の情の爲めに生ずる處の毒藥は其終極に於ては必死的なり。此情は神經組織の細胞を扁平にし分裂せしめ勇氣ある意志を導き難き生理的狀態を生せしめ、有望なるものを散じ、高尚なる動機を暗ふし、其心理的調ふを下だす。是等は將に大決心を以て全然除去せざる可からず。是等の大事を完成する者は何人も有ゆる規範的要求に適したる

意力の大發達を發見す可し。若汝にして元氣を沮喪し易く、絶望し易く、又或は或事の失敗若くは汝の發達を妨ぐる僅の過失に煩悶し快惱するの習慣あらば汝は常に是等の事を胸中に抱くによりて以て夫等の感情より決して脱却し得ざるべく、否反つて之を激成するに過ぎざるべし。然し乍ら若之に苦む者が或幸福なりし記憶を呼び起し、藝術乃至は自然の審美的對象を求め、或は有力なる鼓舞的書籍を讀みて以て其自己の思想の流れを變せんと試むるならんには、其憂悶の情は程なく消滅す可し。陰鬱は去りて光明來り、悲哀去りて喜悅現る。快活ならんとするの法は不快の場合に強

いて笑ふに有り。自己が最困懐せる場合に他人の頭痛に
 關して考ふるに有り。雲厚く陰鬱なる時太陽の輝けるを
 確信するに有り。

或非常に快活なる一婦人は予に語り云ふ、彼女は時に元
 氣沮喪し、憂悶するの傾向を有しき。然かも自ら勉めて
 其情の生起せる場合には輕快なる詩歌を唱し、樂器を彈
 じ、強いて其憂悶の情を拂へり。

一情緒が之に反する情を去らしむるの力は實際に偉大な
 るもの有り、(若新なる思想が其舊思想より力強からんに
 は)。

ルーソフ・フォード氏は云ふ、怠惰に對する唯一の治療法は

活動するに有り。我儘に對する唯一の手術は犧牲に有り。
 不信に對してはクリストの命令を守りて疑惑の念を去る
 に有り。怯懦に對しては未だ戰慄の來らざるに先立ちて
 其恐る可き渦中に投ずるに有り。同様に悪氣分に對する
 治術は其全心と全思想とを満たす可き愉快なる氣分を求
 むるに有り。勿論こは強大なる意力を要す。然かも或過
 失に打勝たんとするには其反對の者の効果を少しも思意
 せざるに有り。且之が習慣の力によりて自己のものと爲
 るに至る迄實行するに有り。自己の心氣を沮喪せしむる
 處の思想に反對なる思想を抱け。然からは即自ら其氣分
 を變ずる事を得可し。想像力は常に自己の不愉快なる思

想或は經驗を變ずる事を得。自己が悪氣分の犠牲たる場合には凡べて是不眞なるものなり、是自己の高尙なる且善良なる自我に何等の關係を有せざるものなり。即造物主は決して斯る暗黒なる光景裡に人類を置かんと欲する者に非すと確信せよ。頑然として其生活に於ける最幸福なりし時代の最愉快なりし經驗を想起せ。又頑然として其心裡に享樂したる記憶を再び呼び起せ。更に自己が完成し、成功せる事物に關する思想によりて其の誤れる思想を驅逐せよ。或は悲痛の念の生起せる場合には敢へて愉快なる思想を保て、希望を振り起こし、光明有り成功す可き未來を描出せよ、數分斯間る幸福なる思想を抱か

んには汝は忽ちにして彼暗黒陰鬱等の有ゆる妖精——凡べて汝を驅りて煩悶に陥らしむるが如き思想——は忽ち消滅し去るを見る可し。是等の妖精は光明に堪うる者に非ず、光明、喜悅、調和は是汝が最良の保護者にして、是等の存する處到底不調和、暗黒、疾病等の有るを許さず。吾人が他に興味ある物の爲めに難事煩悶を去り是を忘るるに至りたる場合には、或は其無意義なるを知るに至れる場合には、煩悶憂愁の念は忽ちに消滅す。自己の氣分を支配し得るに至る迄は、吾人は決して大自在の活動を爲し得可からず。何人も其氣分に左右せらるる處あらば有ゆる羈絆を脱したる自由の人と云ふを得ず。只其

心的檢束を受くる事無く自己の本領内に立ち得る人のみ自由なりと云ふを得可し。若人其日の内に自己の事業に對して最良の手段を盡し得可きや。乃至只其最小部のみを爲し得可きやを自己の氣分に尋ねざる可からざらんか、或は若彼が立ちたる場合に其勇氣の興進せるや否を知らんが爲めに其心的寒暖計を検せざる可からざらんには、彼は實に是一個の奴隸たるものなり。彼は遂に成功し得可からず、且幸福なり得可からざる者なり。自己の事業に就かんとし、是を完成し得可く、且如何なる外的事情も阻止し得べきに非ずとの確信を抱ける人の外貌の常に煩悶せる者と如何に異なるかを見よ。又恐怖

無く、疑惑無く、憂悶無き彼が如何に卓然と身を處するかを見よ。自己の氣分に據りて元氣を消磨せられ、惑亂せられ、支配せらるる數萬人中に於て、平靜を他人の上に移す有力なる人たる可き此優秀なる自我の領土を得るは修養の最後の課程なり。然し乍ら此偉大なる行爲に對する第一の條件に注目せよ。適當なる努力によりて此境界に至り得可きは明かなり。一度此境地に到達したる場合には、吾人は力と平靜に躊躇せざる確信との意義を體得するが故に、吾人は彼半神的均整と威嚴とを以て其目的地に進む人を最早羨望するの要無し。彼等は單に正當に思考する

を學び、其自己の氣分を支配するを知りたる人に過ぎず、吾人は實に欲して斯る人たるを得可き處の者なり。窘迫下に於ける訓練は社會最良の精神的訓練なり。吾人は如何なるものが正義にして又如何なるものが義務なるかを知る。例へ自己が是を爲すを欲せざる場合に於ても尙是を認む、是吾人が堅固なる信念を得可きの時なり。又自己の事業に執着的に従ふ可きの時なり。其事業の健全なりや否やに關しては問ふ可き處に非ず。日夜此嚴格なる訓練を繼續せよ。然からは早晚完全なる自己支配の術に通ずるを得む。

有害なる悲觀主義

多數者は常に困難事を期待し、之を培養し、之を抱擁し、且之に會せんとして走る。斯かるが故に彼等は其會せんとする處の者に會す。何人も困難事を欲する無しと雖も心常に其事の上にあるを以て之を脱する事を得ず。古昔未開の歐洲に於て國境に住したる者は常に護身の爲めに拳銃、鎗、刀等を帯びたりき。然かも斯る者は反つて難事に會する事多く、之を帶する無く、自己の好意、自制、技量、機智などを信じたる者は、さる難事に遭遇する事極めて稀なりき。常に元氣無く、常に落膽し、悲

哀、沈鬱等の思想を抱く者は必ず自己の上に沈鬱と破壊とを來らしむ。是等は快活なる人に對しては殆んど何等の影響をも與へ得るものに非ず。之心常に之等以外に存して光風と霽月とを見るが故なり。多くの不幸なる人民は次第に不幸の習慣即天性を作る。其食物、群がり來る車馬、弱點の發見、自己が従事せる處のものの不愉快なる事等の習慣を作る。常に不平を述べ、常に批評し、些事にも其缺點を見て之を嘲々するの習慣は之を暗黒面に見るものにして、特に青年時代に於て除去す可き最も不幸なるものなり。是が爲めに人は其習慣の奴隸たるを脱し得ず。悲觀主義、不平主義の傾向が慢性と爲るに至る

迄、凡べての衝動は人を驅りて邪道に入らしむ。敢えて是等の煩悶を追求する者は實に特殊的なる者なり。吾人の見る處を以てすれば、世間の多數者は疾病を求めんとす。即彼等は常にマラリア熱に對する解毒劑を、風邪、其他の疾病に對する藥劑を其手中に準備す。是實に彼等が早晚其疾病の爲めに苦めらるる可きを證するものなり。多數者は大陸或は其他に旅行せんとするや、必ず彼等が想像し得る限りの襲はる可き疾病に對する藥劑を準備す。然るに怪む可きは是等の人々が常に病に犯され、風邪に罹り、或は流行性の疾患に染む事是なり。之に反して何等其困難事を豫想せず、常に光明を望む人は他處

に旅行するも決して藥劑の如き準備を爲す無く、又是等の疾患の爲めに犯さるる事殆んど無し。或人は常に敢えてマラリア熱を求む。彼は常に汚穢なる瓦斯及不純なる空氣を呼吸しつゝ、其住する處は餘りに高く若くは餘りに低く、或は明暗共に過度なるが故に健康に適せざるものとなし、若些の頭痛或は苦痛を感じたらんには、彼等は直にマラリアに罹れりと信じ遂に實際之に犯さるゝに至る。是彼等が常に之を豫想し、豫期したるが爲めに終に之を實現するものなり。要するに吾人に悪影響を與ふる處のものは自己の心なり。若心中にマラリア有り、或は又其思想中に傳染毒ミアス

マ存せば、是等は必然に肉體上に表はるるに至る可く。其表はるるは單に時間上の問題に過ぎず。是等の煩悶追求者は不幸災害の根本原因が胃に存するものと爲し。如何なる食物が自己に適し、如何なる食物が適せざるかに關して、苦心研究したる心的圖表を有し、且常に秘密に或新なる消化し易き食料を發見せんと希望す。故に彼は必ず其一匙の食物と共に消化不良てふ感情を嘔下す。即彼は其食物の如何を問はず常に自己を傷ふものなるを確信す。猜疑の思想は消化作用の上に反映して胃液を腐敗せしめ、其分泌を沮止す。従つて此處に煩悶を生ず。

是等煩悶者中の或者は自己の食餌中最も生産力有るものとして空気を認む。全佛國民は絶へず空気に就て煩悶し寢室の窓戸を開放し置けば眼疾、肺炎、風邪、卒中等に罹る恐ありとす。若窓戸の開放せられたる處あらんか、常に是等の空気より來る災害の猜疑者は終に寒胃を豫想し、且必ず之が爲めに犯さるるに至る。甚大なる恐怖、異常なる憂慮は肉體の自然的抵抗力を失はしめ、其影響を受け易からしむ。

若傳染病にして近傍に發生するあらんか、彼災害豫想者は必ず是に感染するに至る可し。若兒童の一人が發咳し、或は双頬に微紅を呈し或は食慾の進まざるに至らんには

彼等は恐る可き疾病の必ず其活動を開始したるを確信す可し。

最も悲む可き場合は恐らく或疾病——普通遺傳せらるる想像せられたるもの——の爲めに終に死す可きものなりと確信したる人の場合なり。肺の弱き、心臟の弱き、胃の弱き等を自ら信じて犠牲と爲れる者は常に其肉體的破壊を思ひ、絶えず之れが爲めに威嚇せらる。是等の人は凡べて藪醫者の獲物と爲るの人なり。彼等は吸収性有る惡魔にして吾人の資財と生命を無限に嚙下す。彼等の廣告は殆んど有ゆる新聞に満ち、多く有名なる醫師の名義のみを示す。是が診断を受くるも、生命をして將に到達

す可き自然の経路に打任せたらんよりも更に／＼無残なるものたらしむ。予は實に是等の人々の内心を刺撃して自己の運命が如何程自己の思想の爲めに左右せらるものなるかを實現せしめ、且又如何に意志の努力が有ゆる心身的煩悶苦惱の疾患より人を脱却せしめ、更に其生活をして天意の大發露たらしむるに至らしむ可きかを實現せしむるの力あらん事を欲す。

或人は常に其不運なると、貧窮なるとを啣つ。彼等は其容貌に於て見得らるるが如く常に災害に苦む。彼等は又自己の失敗、不注意、無神經、不活動等を公示して憚からず。然り、彼等は單に言語の上に表はすのみにして何

等爲す處無し。

予は快活なる一精力的青年が自ら商業を開始したるを知る。然も惜む可し、彼は何人に對しても自己の商業を罵倒するの最も不幸なる習慣を作れり。何人が彼に其商業の如何を問はず彼は必ず不繁昌を口にし。僅に糊口するに過ぎず、將に此業を廢せんとすと云ふを聞く可し。彼は其商業の順潮なる場合にも尙是を云ふに足らずと爲すの悪習あり。彼は元氣を沮喪せしむるの人氣と、暗示とを其四周に放射す。之を以て聞く者をして終に斯る者に耳を借すに堪へざらしめ、之を嫌惡せしむるに至る。此時に及びては彼が繁榮は全然破毀せられ、其大望は顛覆

せらる。

此習慣は雇傭者の場合に於て最も不幸を來たす可きものなり。如何となれば此習慣は傳染性のものにして、被傭者が雇傭者と職業とに對して有する信任の念を破壊するもの有るが故なり。人は厭世家の爲めに活動するを欲せず、人は快活なる樂天的氣氛内に於ては元氣盛にして、失望沮喪中にある者よりも其爲す處多く且巧なり。自己の職業を罵倒する者は之を褒賞する者程に爲す有るを得ず。凡べての事物を罵倒するの習慣は精神をして消極的破壊的方面に向はしめ、積極的創造的方向に向はしめず、終に不調和なる境遇を作る。實に何人と雖下方を語りつ

上方に生活し得可きに非ざるは明かなり。

誤用せられたる想像力は吾人の最悪なる敵なり。予は人が凌辱せられ、輕視せられ、疎略にせらるるが故に常に不愉快に、常に不幸に生活せる者有るを知る。彼は自己を災害の標的、羨望、嫉妬或は惡意の對象と爲り居る者なりと信ず。實際に於て斯る觀念は妄想にして決して何等眞實體を有するものに非ず。

如斯は實に最も不幸を來たす可き精神状態なり。其幸福を殺ぎ、有用を害し、精神の調和を失はしめ、人生は爲めに不満足のものとなし化する。

斯る思想を有する人は其周圍を悲觀的氣氛に化するが故

に絶へず不幸なるの境地を脱するを得ず。彼は實に其境遇を陰鬱に爲す黒眼鏡を用ふる者なり。暗黒の外何物をも見ざるが故に其の生活に快活、光明等を發見する能はず。

是等の人々は貧窮、失敗、薄倖等を常に語る處より終に悲觀に傾き終る。其精神の快活なる性能は閑却せられて全然萎縮し、反つて悲觀的傾向の犬に其力を増し、終に再び其精神は規範的に、健康に、快活なる態度を取り得ざるに至る。

行く處として斯る人は必ず沈鬱、不快等の影響を及ぼさざる無し。其語る處は常に薄命と不幸とのみなるを以て

何人も彼と會話するを欲せず。彼は常に生活に苦み、資財に乏しく、社會は彼に敵す。一度彼病的精神より來る厭世家と爲るや、人は其惡寒と發熱とに満てる傳染毒ある沼地の如しとして彼を避く。

時としては一個人の爲めに全家族かゝる思想に感染し、其家庭の平和忽ち破壊せらるる場合有り。斯かる者は常に其四周の情況と調和し得ざるのみならず、反つて又他人と調和し難し。其心理状態は單に疾病を誘致するのみならずして普通の治癒的過程より來る利益を妨ぐ。ジョーシ、シー、テンネー氏は病院に於ける經驗に本づきて次の如く説けり。

斯の如き凡べての事、凡べての人と調和し難き者を救はんとするは、恰も溺死せんと決心して入水せる者を救はんとするに異ならず。或者は新なる疾病を探し出さんが爲に多くの時間を費し、之を發見し得たる場合には大に満足を感じ。然も何物と雖も、如斯回復す可き規範的案件を傷害する者無し。心に不満を抱き苦難中に有る者に對して投薬し手術するは、恰も熱したる油に水を注ぐが如く、只其結果として來るものは激怒と擾亂となり。治癒は超人的の力、即神力に待たざる可からず、健康の回復を求めて非常に巧なる手段を盡さんとする場合には、恰も神が自ら其手段を用ゐつゝ有るが如く、其手段の適用

が全く調和し居る事必要なり。善知善能なる神は吾人に對して彼の高尚なる究竟目的に到達せしめんとして常に努力しつゝあり。

エー、ジエー、サングーソン博士は云ふ、憂慮煩悶の原因は如何なるものなるにせよ、其肉體上に及ぼす結果に於ては一なり。有ゆる官能は減弱せられ、精神は終に沮喪するに至る。特に或肉體機關が或る他の原因に據りて衰弱せる場合に於て著しとなす。其影響を受くるや疾病を誘致する事極めて速かなり。

治癒過程の最大障害は(特に)激烈なる痛苦を伴ふ疾患の場合に於ては(屢)疾病の素因と爲る心的沈鬱なり。此は肉體

的原因が爲すよりも屢其回復を妨げ、且最回復に必要な自然の驚く可き治療力を個人の意識より消滅せしむ。苦難を追求する最も有害に不愉快なる方法は過失發見なり。不斷の批評なり。或人は他人に對して決して寛大ならず、他人の功績を認むる場合には常に不健全に、且吝なるを示し、他人の行爲に對しては常に批評的態度を取る。

生活困難、失敗、過失、醜惡、偏曲なるものを求めざれば偏僻なる人を見ざれば、只神の創りし儘なる人を見よ。吾人は生活を開始する劈頭に於て大決心を振起し、斷じて他人を批評し、怨呪し、過誤と短處とによりて其缺點を

見る可からず。嘲笑、誹譏を肆にし缺點を探求する事、賞讃の對象を求めずして有ゆる人物、物象より瑕疵を發見し、呪咀す可き物を求むるは是自己に對して最も危険なる悪習なり。是花の蕾或は果實の核を嚙む恐る可き虫の如きものにして汝の生活を苦痛の叫びに満ちたるもの。歪扭したるもの、苦きものと爲す可し。

希望も計畫も爲めに破壊せらる可き此習慣にして一度成らんか如何なる生活も到底調和を得且幸福を得可からず。幸に呪咀す可き或者を求むるの人は其品性を墮落せしめ其規範的忠直の情を破る。

吾人は凡べて光明あり、快活にして希望有る人を好むと

同時に不幸家、過失を求むる者、讒者、誹謗者等を好まず。社會はエマーソンの如きを好み、ノルドウの如きを好まず。蛇の如き厭ふ可き言語を弄する怠惰なる空論家は一時的なる人の満足を買ひ得る事有りと雖も然も他は暫くにして彼が醜性質を認むるに至り。之が爲めに苦めらる。此時に及びてや彼は其生活の何處にも快樂を發見し得ざるに至る可し。

缺點を求むるよりも更に美なるもの善なるものを求めて此人生を渡らんとするは困難なる事に非ず。即高尚なるものと卑賤なるもの、光明、愉快なるものと、暗黒、沈鬱なるもの、希望と失望、光明界と暗黒界とは是實に相

對的のものなり。かるが故に常に光明を見るは暗黒を見るに比して特に難きに非ず。如期して其生活上に來る可き結果は満足と不満足、幸福と不幸、順境と逆境成功と失敗との相違なり。

常に心して光明界に向はんとせよ。更に積極的に暗黒と悪穢、偏曲、奇形、不調和等を抱擁する處あらざれ。常に快樂を與ふるものを抱け。是汝に力を與へ、神氣を鼓舞する處のものなり。斯くして汝は物を觀察する方法を變ずるに至り、早晚其品性を改造するを得可し。

予は親友無く、擁護者無き不幸なる生活を爲せる者が尙利益を求めて努力し、且自ら病身なるも尙其健闘を斷た

す、終に快活に希望有る者と爲りたるを知る。
常に不幸なる者、常に自己の境遇に關して不平を抱ける者は、同じ状態に於ける多數者も尙ほ幸福を感ず可きを記臆せざる可からず。

若汝にして自己の職業、朋友其他凡べての物を罵倒するの習慣有らば、此過程と全然反對なる萬般の物を賞讃する方法を取れ。然らば、如何に速に汝の改めたる思想が汝の住せる處の氣氛を變じ、自己の状態を改善するものなるかを知る可し。

意志鞏固に積極的なる人は自ら消極的なる事を語り且思考する事無し。如斯き人は不可能と云はずして可能と云

ひ試むと云はずして爲すと云ふ。實に不可能は何物よりも兒童と青年とを墮落し落魄せしむること甚し。即消極的否定的習慣に染む事は其者をして墮落せしむ。彼等は其周圍に束縛を敢えて求むるが如きものにして、其思考、談話、行爲等を改むるにあらざれば、其影響より脱するを得ざる可し。

完全なる信仰は樂觀主義、調和等の第一歩なり。厭世的氣氛は常に健康に大害あり。且道德に對すると等しく事業に對しても致命的なり。平靜なる人は決して懷疑的ならず、難事を豫期せず、彼は健康と調和とは永久的の事實なるを知り、疾病と不調和とは、恰も暗黒が光線の無

きに過ぎずして、決して其物自ら實在せざるに非ざるが如く、機會の缺如せるものなるを知る。平靜なる心を得ば人生は汝に對して全然從來よりも異りたる愉快なるものとして表はれ來る可し。

快活なる思想の力

樂觀は人を成功に導くの信仰なり、希望無くしては何事も成し難し。
ヘレ、ゲリ

厭世家の有せざる創造力を快活なる人は有す。光明あり希望ある樂觀的性質ほど人生を然かく愉快ならしむるもの無く、又其煩瑣なる業務に興味有らしむるものなく、

更らに世路の動搖を平易に爲すものなし。彼快活なる思想家は絶望的沈鬱なる思索家よりも無限に大なる心的能力を有す。快活は精神の永久的調整器なり。疲労、憂慮不愉快等を除く可き喜悅の油なり。快活なる人の生活機關は疲労する事無く、消磨し去る事無し。然るに之に反する者は其精微なる舉止、態度を消磨し去り、且全機關の調和を失はしむる事極めて速かなり。

博士エー、ジャー、サンダーソン氏は云ふ、「健康を支持し、疾病を治癒する上に於て極めて重要な素因は快活なり其及ぼす處の力は單に藥劑の如く、一面に効果有ると同時に、他面反動或は疲労等を伴ふが如き人工的刺撃に非

す。實に快活なるの結果は規範的経路を通して生命を賤むるの影響を與ふるものなり。其結果は決して一部分に止まらずして肉體全組織に及ぶ。例へば其双眸は活氣を帯び、容貌は血色好く、歩調は活潑に、而して生命が支持せらるる所の内的活力は増進す、血液は順潮に循環し、酸素は肉體組織の内部に入り、健康は増進し、疾病は消滅す。

約十年前アラバマに住せる一農夫は肺患に罹り、或日耕作中に吐血せり。餘りに多量の出血を爲したるが爲め、醫師は到底其死す可きを断せり。然も彼農夫は、「予未だ死す可きの準備無し」と語り、其時よりして彼は如何

なる事物に接するも大に笑ふに至れり。彼は健康者の見えて以て何等笑ふ事無きものも常に歡喜す可き物なることを主張して絶えず喜笑せり。自ら云ふ「予にして笑はざれば直に死に至る可し」と。多數者は煩悶不平に替ふるに快活を以てせば其疾患あり不調和なる肉體を健康なる調和を得たるものと爲すを得可し。人不平を抱き欠點を發見せる場合には、彼は常に其生活を不快に爲す勁敵の力を意識す。是等幸福に對する敵より脱するの法は其敵即妄想の存在を拒み之を心外に放逐するに有り。調和、健康、美、成功、是等ものは眞實にして之に反するものは着實を缺けるものなり。

或哲人は云ふ、何物も吾人を亂し得ざらしむるが如くせんとし、又吾人の幸福の爲めに最良なるものを取らんとす。思ふに是吾人の義務にして、かく爲すによりて罪を犯す事無かる可し。

ジョン・ルポックは云ふ、若吾人の教師が幸福と義務とを説くが如く吾人の義務と幸福とを説くならんには世界は一層善良なる且光榮ある者と爲る可しと信ず。吾人は能ふ限り快活ならざる可からず、是自己が幸福なるはやがて他人の幸福に寄與する處有るが故なり。

自己の健康幸福を増進せんとするには平靜なる心に加くもの無し。心平靜なる場合には有ゆる能力と官能とは盡

く調和し、規範的に活動す。此處に幸福を得可く、健康を得可し。平靜なる精神を有する者は、常に不安を感じ混亂せる精神を有せる者よりも必ず成功す。

平靜に且均衡を得たる精神によりて爲されたる事業は健全に且鞏固なり。平靜は決して不満足、憂慮、慾望と伴ふ事を得ざるものなり、況や罪惡に於てをや。只清淨なる良心と共存し、正直、方正と相離れず。

快活なる人は事業を成就する上に力有り。吾人は本能的に如何に事に當るに堪うる者に對しても、其性質の偏頗に、且卑む可き品性のものを避く、寧ろ吾人は事業上の技量に於ては前者に劣るも快活なる樂天家と其事を共に

せんと欲す。

現在の事業界は其熱心なる度に於て餘りに眞面目に、又餘りに冷酷なり。アメリカに於ける生活は世界史有りて以來經驗せられたる最も峻烈なるものなり。かるが故に此大緊張に對する慰安は不斷に要求せらるゝ處にして、彼快活、雅美等の精神は灼くが如き旱天に仰望せらるゝ雲翳の如し。地方に於ける商店主は氣軽く快活なる旅行家の訪門を期待する事久しく、快活なる容貌、愉快なる音聲の店員は實に其然からざるの店員よりも賣上げの額の多きを見る。大事業の振興者、創業者は愉快に且凡べてと調和し、他人の好評を博するが如く爲さざる可から

す。新聞記者も亦之と等しく、如何なる處にも入場券を得可き、會見し得可き、事業を發見し得可き、嶄新なる事件を探出し得可き友人を作るの必要あり。實に凡べての門戸は快活なる人に對しては開放せられ、快活ならざる、批評的なる、沈鬱なる人に對しては閉ぢらる。

被雇人は自己が愉快に幸福なる以外に、其快活なるが爲めに境遇を安定にし、俸給を増し、位置を進むるを得。エモリー、ブルは語りて曰く。

妾は愉快なる思想の力を試みんとして此事業を開始したり。妾は元來怒り易かりしが、自ら常に快活なるを誓ひ其以後自己の肉體組織に驚く可き結果を及ぼしたるを見

たり、かるが故に妾は、更に之を他人に迄及ぼさん事を欲す、我が正當なる思想が他人に如何なる影響を與ふ可きか、是妾が始めより知らん事を願へる處なりき。妾が敢えて自ら幸福なりとし、社會は決して自己に逆ふものに非ず、反つて好便宜を提供するものなるを思ひ、次第に自己の事業を進めたる場合に、妾は自ら從來よりも高められたるに驚きたり。妾が歩調は輕快となり。常に爽快を感じ常に微笑の唇頭を去らざるに至れり。其過ぐる處の婦人を觀察するに其人多くは幾分の煩悶と憂愁とを抱かざるもの無きが如し。妾は之が爲めに動かされ其人に自己が感ずる光明の幾分を分たんと願ふに至れり。

事務所に於て妾は見たる處を同僚に語れり。其見たる處こそ實に妾が以前に於ては脱し難かりし境界なりしなり。妾は本來機智あらず、然かも今日愉快なる境遇に達せり。妾が雇はれ居る會社長は極めて多忙なる人にして其事業の爲めに常に煩悶するを斷たず。以前に於ては妾は屢此人の忠告によりて非常に傷はれたるを感じたり。是妾が性質、教育共餘りに感情的なりしが爲めなりき。然るに今日に至りては、妾は何物も自己の愉快なるを防ぐる無きを確信したれば、平常の如く是に答ふるを得。妾が嘗て宿せる親切なる或家庭に於ては、實に妾が取れると同様なる経路を取るを見たり。始め妾は反抗と同情の缺亡

とを感じたるに今や同趣味と、温き友誼とを發見するを得たりと。

若社會が自己に親善ならざるを感せば、自ら誓ふて次ぎの如く云へ、予は例へ白髪と爲るも常に若かる可し、凡百の事予に逆ふも予は斷えず他人の爲めに計る處有らんとして生存するもの、至る處光明と希望とを與たんとす。如斯ば汝は其周圍に花の如き幸福の來るを見る可く、又決して朋友と同僚との缺亡を感ずる事無く、神の平和は實に汝の上に宿る可し。

社會は憂愁と悲哀と落魄と疾病とに滿つこと餘りに多し斯かるが故に光明を要し、不屈不撓の勇氣を要す。

行く處として沈鬱哀愁の雲を拂ふに光明を以てし、喜悅と快樂とを散ずる人の眞價値を評するは誰か。有ゆる人は快活なる容貌と光明有る生活とに引き付けられ、沈鬱憂愁なる者に叛く。吾人は至る處に喜悅を興ふる者を羨望して止まず。財寶と家屋と土地とは斯かる性質を除き去らば卑む可き處の者なり。光明を反射す可き能力は美なる者よりも又單に心理的に完成せる者よりも強力なり。光明の中に住せる者は富める者なり。快活の性質を有する者は祝福せられたる者なり。彼は至る處に喜悅を興へ、陰鬱を散じ、悲哀を去らしめ、惱める者を慰め、絶望せる者を起たしむるの力を有す。此性質を具する者と比較

するに彼資財に富める者の如き殆んど云ふに足らず。此の如き性質を體得するは決して難事に非ず。彼快活なる容貌は是れ温かに且寛大なる精神の反映なり。容貌に表はれ來る喜悅の笑は是れ心の耀きに外ならず。快活なる人は憂愁、煩悶、配慮等のものを其接觸する人より散じ去らしむ。例へば彼衆人の間に坐せば忽ち其話頭の向けられたる悲觀的問題は消えて快活なる笑聲堂に滿つに至る。自己の職業に對し、社會的關係に於て、善應報有る處の他人に對する勤め以外には汝の生活に加へ得る處のもの何物も無し。如斯して事業は得らる可く、朋友は自然に集まり、社會は門戸を開く。快活なる氣質

は實に是準備せられたるの資本なり。人生の幸福を引く處の磁石なり。若必要なれば強いて自ら他人の善美なる性質を見るの習慣を作れ。決して其僻性を見ざれ。實に是人は神の作れるものなるが故に其善美なる點を嘆せよ。ラスキンは云ふ、「自己の過失を考へざれ、況んや他人の過失をや。自己に接觸し來る人の性質中に善にして且強き處のものを求めよ。之を賛し、之を喜び、能ふ可くんば之を摸傲せんと試みよ。然らば自己の過失は時いたりて枯葉の枝を去るが如く消散す可し。若汝にして堅く他人に對して親切なる語を吐かさざらんと

決心せば、若汝にして何人の性質中にも何等の善美を發見し得ざれば、若くは其得長を見ざらんには、何物をも見る勿れ。何物をも云ふ勿れ。斯の如くせば汝が生涯に於て非常に變改せらるる處有る可し。即久しからずして凡べての事物が喜悅と平和との使命を帯びて來れる者なるに驚く可し。常に有ゆる事件の光明面をのみ眺めたらんには此社會に存する處の煩悶は極めて少數と爲り、更に其少數なるものが終に美に化するに至るを見る可し。汝の腐儒的特徴は恰も汝が眞個健全に、且幸福なる自我を隠蔽せる醜惡なる假面の如く取り去らる可く、而して世の人類の經驗に關する祝福は盡く汝のものなる可し。

否定は人をして麻痺せしむ

否定は何事をも成就する無し。否定には生命なく、只墮落と破壊と死と有るのみにして、成功の最大勁敵なり。有ゆる物を罵倒し、困窮、虚弱、不健康等に關して常に訴ふるが如き人は必ず破壊的なる否定的影響を誘致し、有ゆる自己の努力を中性化したる。

建設的思想は常に破壊的なる思想を有せる人、又常に破壊的言語を用ふる人を捨て去る。實に是彼が肯定の何物をも有せず、且是を誘致すべき何等の因をも有せざるが故なり。創造的原理は否定破壊的氣氛内に存するを得ず、

如何なる成功も遂に致し難し。然し否定的なる人は常に降下的境遇に在り、常に失敗を招く可きの地に有り。彼等は肯定の力を失し、向上するを得ずして徒らに彷徨す。若汝にして此思想に囚へられれば否定は汝の欲望を麻痺せしめ。更に其生涯を毒し、汝の精力を奪ひ、終に自信の力を殺ぎ去り、自己其者を制御するを得ざらしめ、反つて此思想の犠牲と爲る。人が活動し得るの力は其自信力に據る事極めて大なり。如何の事業を企つるも之を爲し能ふとの信念無くんば決して之を爲し得可きに非ず。之に習熟し得可しと心理に感ずる處無くんば人は何事にも習熟し得べからず。斯かるが故に其物質的なる者に着手

するに當りて先づ心裡に之を完成する事可能なりとの自覺存せざる可からず。

科學も心裡に疑念を抱ける者に對しては何等の智識をも與ふる能はず。何人も自ら課したる束縛或は制限を越へ得る者に非ず。世に立たんと欲するの人は必ずや其制限的なる自己の信抑を拒まざる可からず。即ち有ゆる否定的暗示より脱離せざる可からず。完成し、成就する處有らんと欲せば將に不斷の決斷と勇氣とを以て肯定せざる可からず。

例へば一童兒あり、悲んで次ぎの如く云はん。「予は起き出づる能はず」と。然らば彼は自ら起立し得との明かな

る觀念を得るに至る迄は、或は自己に起立し得可き力ありとの信念を抱くに至る迄は、到底床を離れ得ざる可し。將に世に立たんとするに當りて常に次ぎの如き言を斷たずんば其結果は如何。予は斯る事を爲す能はず、故に之を試むるの要なし。縦ひ他人は之を爲し得可きも予の到底能ふ處に非ざるを知る。或は又其課程を習得し得ずと云ふ者、其課題を解し得ずと自ら斷する者、到底専門の學科を修め得る處に非ざるは明確なりと自認する者の如きに至りては、如何に努力するもの彼が目的とする處のもの完成し得らるる期無けん。斯くの如くして彼は終に不可能の犠牲と爲る。此場合實に否定は彼の主裁者なり。

り。不可能は其生涯を通ずる主義と化す。有ゆる自尊、自信、能力等に關する意識は終に覆され、破壊せらる。人は到底自己の思想以上に其行爲を向上せしめ得可きに非ず。之に反して可能の語を以て其主義と爲す者に就て見るに、彼は其の前途に何物も障害たる可き物の存せざるを知り、従つて自己が目的とする處の容易に完成せらる可きを見、此處に彼を驅りて勇性事に當らしむる決心を導くに至る。是實に彼が不斷の肯定より來る處なり。法律家にして藥學或は機械學に心を專にしたる場合には其職とする法律的方面に於て名聲を得る事の不可能なる

は明かなり。彼は心常に法律に在らざる可からず、常に之が研究に従ひ、其主義とする處に従はざる可からず。然るに其心專ならず、自己の専門とする處に反する思索を續くると同時に、其専門とする特殊の事業に於て名譽を博す可き技量と能力とに到達せんと豫期するは絶體的に非科學的なることなり。斯かるが故に知得する事或は思案する事弱く或は不完全なる者が、強力なる、勇氣有る心力を發達せしめんと期待するは是寧ろ滑稽に屬す。汝若或個人的欠點(心的、道德的或は肉體的欠點)に關して常に憂慮する處有らば汝は終に到達し得可き處に到達し得ざるもの有る可し。理想即自己の標的とする處に達し

得ざる可し。汝にして否定的破壊的過程を其心裡に抱ける間は何物をも創造し得べからずして、終に虛弱、無力なる者と化し了る。

多數者は其生涯を通じて虛弱なる思想、疾患ある思想、過失有る思想を抱きて苦む。是等は其心に最も醜惡なる理想を抱き、自己を賤み且惡む可き者と思考しつゝ、肉體と品性とに關する美の最高形式を得んとする少女と相等しきものなり。若彼少女にして美なるを欲せば節操固く美的理想を懷き、而して之に則らんと試むるところ無かる可からず。然らんに單に肉體のみならず、其道徳

的性質も亦此努力の爲めに審美的理想に到達するに至る可きなり。然し乍ら若彼れ少女にして全生涯を通じ、常に自己の醜惡なるを思ひ、且其事實を悲まば彼は遂に美を期待する事能はざる可し。

快活なる可き青年男女が其病的理想と、薄弱に且欠點に満ちたる自己なりとの思想を抱くが爲めに其生活を羈束せられ控制せらるるは最不幸なりと云はざる可からず。是等の妖魔是等の非實在、是等幸福の敵たるものを其心裡より驅逐せよ。絶望と沮喪との谷底より、自己が四周の空氣を毒する病毒より、又卓抜精力等の氣氛に混じて吾人を窒息せしむる事久しかりし汚穢腐敗物より脱離せ

よ。然らば則ち汝は忽にして改善せられ、希望に満ち、成功の境地に達す可し。

人若一度其最高標準とする處のものが平凡普通の水平線に迄引き下げらるるに至る迄は心裡に病的理想、缺點ある理想を抱くが爲めに、其非道徳的影響を實現し得たらんには彼は失敗の谷底に住し、其生活の根底に生存するを満足せざるに至る可し。

貧窮なりとの思想、不幸薄運なりとの信念、及他人が爲し得る如く資財を集獲し得ずとの信念に捕へられたる場合に於て何人か自由、隆盛に幸福なるを得んや。

人は自己の能力に關する信念を失へる場合には、如何な

*This is a pen
This is a pen
There is a pen*

養修と人偉

より自己を離脱するを得せしむる力を誘致す可き自己の力を失ふ者なり。如何に多数の人が自ら課したる虚弱、薄倖等の爲めに幾多の年月を煩悶の裡に送りたるか。彼等は心裡に病的理想を思念しつゝ、有る限りは、到底健全なる氣氛内に立つ事能はず。疾病に關する信念は實際に於て彼等の肉體的に之に相應する處のものを生ず。例へば或恐る可き疾病の癌腫を遺傳せりとの信念及醫師が四十歳後に於ては將に其徴候を表し來る可しと豫言したる事實は、人をして常に其疾病の症狀を豫期せしめ、而して潰瘍と爲る可き普通の腫物を發せしむ。

養修と人偉

る状態を以て繁榮を求めて努力するか。且如何なる状態に於て凡べての機會が他人に利なるに自己は之を捕へ得ずと自信するに至るか。彼は其不完全なる思想を抱ける間は此境遇より脱却せんが爲めに熱心に且有力なる努力を爲す能はず。彼は到底自己を阻隔する處の制限を超越し得ず。彼は其立脚地を得可き確信と自任の念とを抱き得るの法を知らず。然して彼は尙ほ貧窮を思ひ、貧窮を語り、貧窮の内に行爲し、貧窮を夢む。彼は其何が故に薄倖なるかを怪む。

彼は自ら自己を否定し、有ゆる成切の素質を抗拒すると同時に失敗の素質を誘致す。實に彼は疾患的致死的境遇

寒氣に對して繊微、且鋭敏なる官覺を有する少女は幼時よりして肺病の爲めに死せる母の遺傳を受けて之に感染し易き傾向を有するが故に可及的大なる注意を爲すを要すと云はる。此肺患に關して凶を豫言する事及其身体組織に於ける恐る可き敗壞は其若き生命の上に消磨し難き痕跡を存し、且健全に、快活なる發達を阻害し或は肉體的反動を進む。

是等の状態に常住する事は食欲を減じ、消化作用を亂し、同化を妨げ、更らに其の結果として憔悴を來たさしむ。然かも此は其犠牲をして失望落膽せしむるに足らざるかの如く、各人盡く彼女の如何にも不良なる容色を爲せる

を説き、如何に日毎に憔悴し行くかを語る。人は屢言ふ今や大に注意を拂はざる可からず、知れる如く汝の母は寒胃に罹れるが爲めに終に逝けりと、或者はまた肝油と強壯劑とを以て彼女の腸内を愼充せしむ、然かも是等は他人が彼女より奪ひ去りたる精神的抵抗力に對しては殆んど云ふに足らざる報償なり。

人類の多數が其祖先の罪業の結果或恐る可き疾病に襲はれ或は或殘忍なる運命の爲めに壓倒せられ、打破せらるるを豫期する此恐る可き煩累を擔ふを以て生涯を苦むは極めて憐む可き光景なり。是れ恰も其父母が盜賊殺人の行爲有るが故に其兒孫を牢獄に送るが如きものなり。吾人

にして青年の心裡より此墮落的哲學を除去するを得ば社會は實に改善せらる可し。是日光によりて影を消し、愛によりて嫌惡の念を反照し、不調和を去りし調和を表すものと云ひて誤らざる可し。斯る信仰を有するは單に殘忍邪惡なるのみならず實に不合理なるものなり。造物者は此方法によりて吾人の生命と將來とを光榮有るものとせず。是等恐るべきの光景は人類の技術家によりて描出せられ。其根本は何等神と相關する處無し。吾人出生の條件は如何にせよ、吾人は是等のものを壓倒し得可き無限より來る精力を有す。

肯定は力を與ふ

爲さんと欲するものにして始て爲すを得可し。社會は笑つて障害に對するが如き精神を有する人の爲に道を開く、ニャーソンが云へるが如く、天の星に車馬を繫留する人は蝸牛の泥滑的行路に匍匐する者よりも反つて其目的地に到達し得可し、と。

信任は成功の母なり。是其能力を力强からしめ、精力を二倍にし、心的能力を支持す。

人の思想は其確信の力、決心の重さ、及信任の力を伴ふに過ぎず。若是等にして薄弱ならんか其思想又薄弱に其

事業は徒爾に終る可し。或人々は強く且深き信念を抱く無く凡べて表面的にして他人の意見の爲めに變化せられ易き者有り。若彼等或事項に關して決心するも其決心は彼等が最初に遭遇する障害の爲めに忽ち破壊せらるるに至る可き淺薄虛弱なるものなる可し。斯る人々は變じ易く信じ難し。彼等は決斷力を欠き、決心の積極的方面を缺く。

決心の力無きものは何の用か有る。若其確信も單に表面的ならんには人は何事をも爲し得可からず。何人も彼を信する無し。個人的には善良なる人なるも然かも彼は信任せらるる處無く。何人も重大なる事件の發生したる場

合に彼を呼ぶ者無かる可し。確信が其本心に横はるに非ざれば人は殆んど人生に於て成就する處無し。信任し得るに足るの人は確信の根深かく、不屈不撓なり。世に重んぜらるるの人は是他人に影響を與へ得るの人なり。彼は又相異なる説を有する人の影響以上に在るの人なり。若青年にして肯定の力を知り、心裡に不撓の力を抱き、其欲する者たり得可く且企圖したる處のものは之を爲し得可しと肯定するの習慣の力を知るならんには恐らく彼等の全生涯の改變せらる可く、其疾病煩累よりして超脱するに至り、且殆んど夢想せざる高尚なる高地に到達するを得可し。

吾人は常に意力に關して語る處有り。其課程は單に肯定の他の形式たるに過ぎず。意志(或事を爲さんとする決心)は之を爲す可き能力に關する肯定と相等しきものなり。何人も其計畫したる處のものを或方法に於て肯定するに至る迄は此社會に於て何物をも完成する處無かる可し。其自己の職業に關して確乎たる信仰を有する人をして其事を爲さざらしめんとするは殆んど不可能事なり。成功す可き能力及然かく爲さんとする吾人の決心に就ての不斷の肯定は吾人の困難を除き障礙を去り、笑つて災害に對せしめ其事業を完成するに足るの力を増さしむ。是其自然的能力と精力とを強大にし、支持し、且其事業を完

成せしむ。

不斷の肯定は勇氣を増す。而して勇氣は實に信念の湧き出づる源泉なり。予は當に爲す可し可能なり、と云へる場合には其人は常に勇氣を増し、其信念を強ふするのみならず、更に又其反對の性能を減弱せしむ。積極的の方面が強大になると共に其消極的なるものは薄弱と爲る。精神にして肯定的状態に在らんには如何なる難事も是を完成するを得可し。最も優秀なる性能は凡べての積極的、進攻的なるものなり。斯の如き性質を實施し、適用するに當りては之に相應す可き心理状態を要求す。其優勢なる性能を有せざる人は到底指導者たり、獨立獨



行の者たるを得ず。彼は他人の追隨者、模倣者たるのみ、其思想が消極より積極に變じ、疑惑より確定に、萎縮退嬰より向上進取に變ずるに非ざれば此状態よりして脱却する事能はざる可し。實に成就し得る處の者は確乎たる積極的の人なり。

若汝社會に於て大に爲す處有らんと欲せば縦へ一時なりとも薄伴なり、他人より不幸なりとの念を抱く事無く、全力を盡して此念の發生を防ぎ、更らに自ら其心身上或は道德上の缺點を承認せざるが如く訓練せよ。他人の爲し得る處のものを自己は不可能なりとし、且自己は負ふ處多きが故に社會の比較的劣等なる地位に満足せざる可

からずとの愚劣なる思想を退けよ。凡ての疑惑を驅逐せよ。是實に汝の生涯を脅かすものなり。更に自己の貧窮、不幸の状態に關しては決して語る所無く、思ふ處無く、筆にする事有る可からず。其他汝の生涯を制限し、阻礙し、萎縮せしめ、暗黒に爲す有ゆる思想は之を去れ。是等のものは盡く恐怖より來たる妖怪なり。造化は決して是等のものを造り汝を苦ましめんとはせず。神は幸福を與へ喜を與へ其境遇に打勝たしめんが爲めに汝を作れるものなり。

造化は決して何人をも煩はす處無し。吾人の蒙むる制限は是吾人自ら課する處のものなり。如何なる事の起り來

るも自ら自己の樂天家なるを信せよ。厭世觀は汝に於て終に何等得る處有るなし。正義は最終の勝利なるを信じ、其勝利は眞にして且高尚なるを思へ。自ら好時機に生れ、且適處に生れたるを謝せよ。他人の爲し得ざる事業の存するを喜べ。機會と健康と教育と完成す可き事業ある社會に於ける最幸運なる者なるを信せよ。若汝にして事業を得ず且貧窮ならば先づ其貧窮と困難とに關する有ゆる觀念を其心裡より取去れ。而して自己の幸運に、健康に、勇氣あり、活力有るを思ひ必然に成功す可きを信せよ。汝に社會有用の人物たるの念を與へたる造物主は又其企望を満たす可き能力と機會とを與ふる

ものなることを確信せよ。

成功に自己の心に向けたる場合には周圍の有ゆる者をして成功を表さしめよ。其動作、其衣服、其態度、其會話

其他萬般の事をして汝に成就と成功とを語らしめよ。

繁榮と調和との思想を抱き、成功すてふ決心を抱きて起き出でたる其日は非常に愉快に且利益有るを見る可し。

若汝或特殊なる事を爲す自己の能力を疑ふに至らば先づ自ら斷々乎として自己を信するの念を強めよ。是自己の性質中に於て自己の忠直或は全體的勢力、自信、信用を攝取する處なり。如斯して汝は其企圖したる事業に對して勇氣あり、又之を容易に爲し遂ぐるを得可し。

是等の觀念を不斷に抱ける場合には其生活上の外觀を全然變改するに至るを見る可し。新なる立場より自己の問題に對するに至り、生活は此處に意義を有するに至る。此不斷の肯定は周圍の境遇と汝を調和するに至らしむ可く、汝をして満足せしめ幸福ならしむ可く從つて汝の健康に對する有力なる聲援者と爲り。個性と勢力とを建設する上に汝を助くと尠なからざる可し。又或は汝の腦を明かにし、其思想を有効なる者とす。實に心的機關を純潔に保つ事は勇氣ある思想と斷乎たる行爲とを爲さしむ。若汝或性能に缺くる處有らば汝は不斷の肯定によりて之を補ふを得可し。若汝(多數者と等しく)其本性に怯懦なる

點有るも絶體に恐る可き事無く、自己は勇敢なり、何物も身を傷ふ無しと不斷に肯定するに據りて、之を補ひ、之を改むるを得。思へ、恐怖は單に危険の感に過ぎず、彼造物主の大目的に對する信仰を抱きたる場合には何等恐怖の原因と爲る可きもの世上に存する無し。若自ら其唯一の大原因存し、其反對は妄想ならざる可からざる事を確信したるならんには、汝は漸次恐怖の念を失ひ、更に其欲する處の勇氣を得るに至る可し。汝に恐怖の念の生起し來る有らば「予は絶體に恐怖せず、世に恐る可き物無し、恐怖は實體無し、眞に非ず、是勇氣の缺乏に過ぎざるなり」と信せよ。エマーソンは此哲

學の利を知れるが故に不斷の肯定によりて以て吾人に勇氣有らしめよ。惡に對して叫ぶ勿れ、美と善とを頌せよと説けり。

汝の生活に於て眞實ならざるものを心裡に止めざらんと決心せよ。毒せられたる思想を却くる事恰かも身の危険を避くるが如くせよ。汝を壓迫し、不幸ならしむる處の不調和なるもの、或は不幸に關する思想、或は虚弱、痛苦の思想を懐く無く。之に代ふるに快樂、希望、樂天等の思想を以てせよ。汝が失望し落膽したる場合に、若汝にして自ら或愉快なる事を暗示するの習慣を作りたらんには、汝は其思想の全過程の變改せらるるの速かなるに

驚く可し。而して之が變せらるるや、感情も亦變せらる。即其勇氣と信任とを増加し、従つて其周圍の事態の變改せらるゝを見る可し。希望は此處に表れ。生活上健全なる步調を得るに至る可し。思想は其心を壓する無く、反つて不斷なる激勵鼓舞の聲調と爲る。光明は前途を照し、暗黒は其陰を減す。

若汝強力なる肯定の力を有せば、若汝一目的に對し充分なる意志を以て自己の能力を集中するを得ば、其夢想せるもの、追求せるもの、希望せるもの皆盡く汝の到達し得る範圍内に來る可し。此處に云ふ能力集中は健康、資財、位置等に對するものを云ふ。自己の欲望する處は不

断に肯定せよ。之を常に心裡に抱き、全幅の精神を傾倒せよ。其精神にして大に積極的、創造的なる場合には其希望せる事物は恰も石の地上に落下し來るが如く、必然に成就せらる可し。人は實に其欲する處の状態を誘致するに足る磁石其物なり。

思想は力として反映す

吾人が生活上最も活潑に活動せる間は、思想の力は決して窮盡する事無し。思想は吾人の精神或は肉體に囚へられたる者に非ず。

フエマーソン云ふ、天才或は敬虔なる者が社會に投ずる思

想は社會を改善する處有り。此處に云ふ思想は單に印刷せられたる思想、教壇或は演壇上より説かれたる思想、或は普通に云ふ語られたる思想のみを意味するに非ず。實に吾人の最大切なる不言の思想は自ら社會に表れ來りて影響する處有り、又吾人の周圍を感化する。各人皆自己に特殊なる氣氛を有す。是其特長、其希望、其熱誠に満ち、且凡べての希望を支配する思想によりて導かるゝが故なり。自己と接觸する有ゆる人に與ふる處の印象は是思想を分つものにして、其欲望の性質は有ゆる有意的行爲に混入す。汝は自己の心理に抱ける思想を他人の心裡に與へ、汝の

思考する處は汝に關する他人の意見を制限し、確定す。他人は汝の思想の性質を感じて力有るものなりや、薄弱なるものなりやを知り、純潔に且高尚なるものなりや、乃至卑賤劣弱なるものなりやを知る。彼等は汝が沈黙せる場合にも尙汝が理想の性質を判するを得。彼等は斯くの如くして汝を評價するに至る。實に此評價は彼等が汝よりして受くる(暗黙の間に於ても)感化より來る處のものにして、譬へ汝は然らず、之に反すと敢えて主張するも彼等は漸次確乎たる信念を懷くに至る。エマーンソンが云へる如く、如何に高聲に語るも予は其聲を聞くを得ずと吾人の思想が輻射する處の氣氛は吾人を表はすものなり。

吾人は自己にあらざるものを輻射する能はず、吾人を知るの人は吾人が主張する處のものを取らずして眞に吾人自身を尺度す。吾人は自己が他人の上に有する處の影響及其結果を、他人が自己の上に及ぼす處の者を解剖して以て最もよく評價する事を得。更に、吾人は自己に對する其思想の意義によりて眞の友なるものを知る事を得。吾人は自己の過失に對しても彼等が寛大に且宏量になる事を知る。彼等は吾人の意識内に不斷に自己を輻射す。吾人に對して如何に愉快に、快濶に或は深切なるも若彼にして敵意有る思想、卑しき思想を抱き或は怨恨を抱き

或は彼自ら云ふ處のものに非ざるならんには其人は吾人に對して何等の力無きものなり。吾人は本能的に其假面裡を洞見し、其真我を暴露し、彼が吾人を欺き得たりと信せる内に吾人は彼が如何なる本性を有するかを本能的に知る事を得可し。

彼は到底予の堪ゆる處に非ず。彼は常に予に訶諛すと、斯る言は屢聞く處なり。然かも其問題に上れる個人は實に善良なる印象を與へんとして能ふ限りを爲しつゝ有りしなる可し。

家庭に於ても、官衙に於ても、扱ては人生の有ゆる關係に於ても、或者の思想の輻射は重要な影響を有す。如

何なる注意も努力も此輻射する處の影響に比して常に要用なる且有利なるものと爲す事を得ず。

一日にして光明有る人生に暗影を投じて其快樂を壓却し希望を破壊し、熱望を抑制するが如き幾多の傷害、換言すれば數年を要して尙是を打消す事を得ざるものものはるゝあり。吾人にして生活上の難破の光景を明かに見るを得ば必ず驚嘆を禁じ得ざる可し。此處の一刺傷彼處の一衝撃、残忍なる諷刺、譏諷、激烈なる批評、嫉妬、羨望、嫌惡、憤怒、復仇等の思想は不斷に其致命的使命を帯びて多數者の精神を喰む。

沈鬱に且意氣沮喪せる人は行く處として其厭世主義を散

布せざる事無く、爲めに其四圍の氣雰は毒せらる。是實に彼が悲哀と憂愁との念を断たざるが爲めなり。成功と幸福とは實に斯る氣雰に生せず。希望は此處に存せず。喜悅は此處に止まらず、笑聲無く、喜びの顔貌は見る可からざるに至り、吾人は到底其境地に生存し得可からず、若吾人にして眞に是等壓迫的なる氣氛より脱却するを得ば、其得る處の清新の氣は果して如何なるものなる可きか。

或者は其接する人に卑む可き者なりとの感を惹起せしむるあり、又兩者相互の性質に關しては何等疑念を懷く事無かりしも、結婚したるが爲めに配者の好ましからぬ性

質を發見する場合有り。

或人は一種の傳染性氣質を發散し、其範圍内にある者を毒する有り。以前に於て其人が如何に寛大に、如何に大量なるを感ずるも一度是等の人が吾人に接觸し來りたる場合には到底吾人は悔恨を感じ、萎縮、沮喪せざるを得ず。彼等人物が吾人の面前を去る迄は其所に自發と可能と存する無し。恰も驚かされたる蛤の如く、吾人は自ら危険界を脱したりと感ずる迄は能ふ限り自己を密閉す。

吾人は斯る人に接近したる場合には到底平常の自己を保つ能はず、吾人は彼等と一致する能はず、交際する能はず。之と相離隔するに至る迄は平常時に於ても尙病める

が如し。其分離せる場合には重荷は取り去られ、吾人は再び本然の自己となりたるを感ず。或人は恰も主調音の如く、或は激越なる、又清新なる微風の如く行爲す。即彼等は吾人をして新なる存在の如く感せしむ。其彼等に接して受くる靈感によりて吾人の思想は大に刺撃せられ、吾人の能力は鋭敏にせられ、吾人の知識は敏活にせられ、言語と感情との關門は開かれ、且吾人内心の詩的感情は覺醒せらる。若汝にして一吝嗇漢ならんには、又若汝にして貪慾ならんには、汝は其貪慾より超脱することを得ざる可し。然し乍ら汝は其目的に對して人格を高尙ならしめ能はざる

の料を拂はざる可からず。若汝卑む可く且吝嗇ならば、若汝の心理的態度が人生に於ける凡べての美なる物を萎縮せしめ、其生長を防ぐるならば、若汝の心理的傾向が拒止す可きものならば汝は社會に對して堂々と反對を公言する能はず。若汝にして希望、企畫等を凋萎せしめ、或は心氣を沮喪せしむるの思想を抱かんには汝は將に之と相等しきものを輻射す可し。汝の憧憬、渴仰が資財に有るも名譽に有るも或は眞に他人を救ふに有るも、實に汝が輻射する品性は之によりて決定せらる可し。吾人は暗黒に於て自己の思想の性能と相交通し得るが故に吾人が是等の思想を訓練し、虚偽、墮落、疑惑等を脱

し、清、純、眞等の思想と爲す事は極めて重要なり。僕婢は實に不正直なりと疑はるゝによりて不正直と爲る。此思想は自然的に猜疑の念を有せる人により僕婢に對して漸次強くせられ、終に彼等をして全然盜心を起こさしむるに至る。

積極的に其確實なるを證するに至る迄、他人に對し猜疑の念を抱くは單に殘忍なるのみならず之が爲に他人の心は傷けらる。汝は元來其猜疑より來る卑む可き思想を以て他人の精神を犯すの權利無きものなり。只其惡む可き想像は將に之を厭倒し盡さざる可からざるものなり。即彼罪惡に關する思想を懐くを許さざると相等しきものな

り。多數者は是等に關する無慈悲なる又惡む可き思想によりて數年間厭服せられ絶望せしめられ、屈從せらめられたり。

多數者は恐怖の思想疑惑の思想失敗の思想を行く處として散せざる無く、是等は終に心裡に其根底を深ふす。他人に對する惡意的思想、不健康なる思想、疾病的思想、不調和なる思想、致死的思想等を抱ける場合には是其自己の心裡に誤れる處有るが故なりと知れ。社會に對して何等かの善を爲すを得ずんば、將に惡意、嫌惡等の毒物を散せざらんことを誓へ。

凡べての人に對し常に親切に、慈悲に、大量に、愛に満

ちたる思想を抱け、然からんには汝は彼等を歴する事無かる可く、彼等を妨ぐる事無かる可し。更に悲哀と、暗影とを投ずるに反して光明と喜悅とを散ずるの効果有り。絶望に代ふるに助けと勇氣とを與ふるの功德有り。

常に成功の思想、健全なる思想、喜悅の思想、向上、希望有る思想を輻射し、行く處として光明を散ずるの人たれ。如斯は實に社會の救護者、煩累の軽減者たる者なり。生活の動搖を穩かにし、傷けるを慰め、絶望せる者に勇氣を與ふるの人なり。

大に喜悅を放射することを學べ、自己の喜悅を隠秘する無く、發展せしめよ、之を家庭に於て、市街に於て、車上

に於て、商店に於て恰も薔薇が、其芳香と美とを遺憾無く露すが如くに注ぎ出せ。一度社會にして愛の思想が傷ける者を治療するの功有り、調和、美等の思想は常に人を高上せしめ、美化せしめ、到る處に光明有らしむるを知れる場合には、——凡べて死、破壊、衰退等に反する——即ち此正當なる生活の神秘を知るに至れるの時なり。

成功と思想

其椅子より起立し得ざる事を信じて催眠状態に入れる人は如何に大方なるも其暗示より脱するに至る迄は全く無

力なる者なり。虚弱なる婦人も生命を救ふに急なる必要よりして火災、出水等の危険に際し、自己よりも重大なる物を運び得るを見る。此兩個の場合に於て其心的態度は——肉體的能力に非ず——其結果を決定す。然かも兩個の行爲は只筋肉に關する活動なり。其爲さる可き事件が全然心的活動より成る場合には其思想及心的態度が之を決定するの力の極めて偉大なるもの有るや必せり。戦争、商業、道德上の煩悶等に關する勝利者は實に其心的態度如何によりて之が勝利を得たる者なり。尙詳言すれば吾人が或る境遇より脱却し能はざるが爲めに遂に其犠牲となりたりとの確信は無數の悲劇的失敗、

貧窮、落魄等を惹起するに至る可き實行的能力の破壊と成功的能力の衰退とを誘致す。斯る信仰は非規範的なるものにして、従つて非規範的條件を生ず。勢力は人類生來の權能なり。然し乍ら、人は虚弱と制限とに従ひ、貧窮、不幸、奴隸等を要求し、富、幸福、自由等を捨てたり。如何にせば人は自己が可能なりと思考し確信するに至る迄は其不幸なる境遇を脱却し能ふか、何處にか人が不可能なりと思考したる時にも可能ならしむる科學有りや。何處にか人が失敗を思ひ、失敗を語りつゝ生活する間に成功するの法有りや、人は同時に相反する兩面に行くと得ず。

疑惑有れば、確實無し。運命と不能とを其語彙より消し去るに至る迄は汝は到底起ち得ざる可し。汝は自己の虚弱なるを信せる限りは強力とならず、或は自己の困難、不幸に其心を勞する限りは幸福なるを得可からず。人は常に其健康ならざるを思ひ、剛健ならざるを思ひつゝ、健康に且強力ならん事を豫期す。同様に彼は自己の計畫する處の事物に對する其能力を疑ひつゝ、其實行的能力を強大に且勇氣有るものならしめんと豫期す。何物と雖も然かく其心を弱ふし、且其有功なる思考力を不適當なりと爲す事、或は虚弱に關する不斷の承認、自己の能力に關する疑惑の如く人を過たしむるもの無し。

失敗者の多数は其企圖したる處のものを爲すの能力に疑惑を抱く者なり。青年が將に新生涯に入らんとする瞬間に其心裡に疑惑を許すは是彼が自己の陣營に敵を導きたる者にして間者は應に彼を詐く可し、疑惑は失敗なり。一度彼等にして其心に入らんか忽ち之と相等しき他の性能を誘致し遂に希望を消滅せしむるに至る。繁榮を仰望する事、成功を慕ふ事は凡べて汝が怠惰者、損失者、失敗者を款待する限りは徒事たる可し。疑惑は汝の成功を致す可き精力を衰耗せしめ、破壊し去る可し。失敗は汝の心裡に、汝の行爲に關して優勢と爲る可し。汝が弱點を許し、汝が缺點を自白するの瞬間は實に汝無

きなり。自己の本質を失へる人、努力、煩悶を捨てたる人には何等の希望有る無し。人は彼と何事をも爲し得可からず。若世に卑む可きもの存せば、自ら怠り、自ら捨て去り、予は不能なり、無用なり、社會は予を入れず、予は薄運なりと云ふが如き者は是なり。自己は世に沈淪し、且到底立つ能はず、成功は他人の事にして自己の能ふ可き處に非ずとの思想を不斷に抱くは是自ら自己の思想に對して適合せんとし、且他の條件を不可能と爲さんとする者なり。如何にしてか口に自己の薄伴を断たざるもの幸運なるを豫期し得んや。自ら塵埃より作られたる憐む可き者なりと思考せる間は到底然塵埃たるを脱し得べ

からず。人は實に自己の思想以上に向し得ざる者にして自己の抱ける概念より異なる境地に超脱する事難し。若汝眞に不幸に且薄運なるを信せば、汝は即如斯き者たり、自己の思想を變改するに至る迄は其状態より汝を脱却せしめ得可き藥劑も處方も將た勢力も此社會に存するを無し。而して思想の變轉は身体に於ける情態の變轉を來たさしむる事恰も太陽と降雨とが薔薇の蕾を開かしむるが如し是れ純然たる科學的の現象なり。大事を爲すの人は是彼等か肯定力の強きなり。彼等は偉大なる積極的能力を有す。彼等は消極的の意義を知らず。固守の方と、爲す可き能力とに關する確信とは極めて強

大にして其反對なるものも之を犯す事能はず。彼等が或事を爲さんとしたる場合には疑惑の念を抱くこと無く、或は如何に他人が嘲罵するも何等顧慮し憂悶すること無し。有ゆる大人物は其事を遂行する間に於ては偏想家、狂人と呼ばれたり。實に近代の文明は是等嘲笑を被りたる偉人の崇高なる信念に負ふ所多し。其信念や實に何物に對しても確乎不動にして自己の天職を感じたるの信仰なり。有ゆる社會の促進的運動に關する歴史は實に彼等の傳記中に存するを見る。

若コツバーニカス。ガリレオの如きが幻想家と呼ばれ狂者と嘲けられたる場合に其研究を放棄せば如何。今日の

科學は實に彼によりて説かれたる、地球は圓形にして太陽の周圍を回轉すとの動かす可からざる真理の上に立てられたるものにあらずや。若コロンバスにして全歐彼を幻想者として嘲弄の聲を上げたる時に其計畫を遂行す可き信念を失ひたらんには如何。若サイラス、タブリュー、フィールドにして海底を測量する事十一年なるも正確を得ず、海底電線は布設毎に切斷せるが爲めに之を繼續するの勇氣を失ひたらんには如何。若彼にして、汝は自己の資財を徒費する者なり、汝は終に貧窮困憊の間に死す可しとの知己親戚の言に傾聽する處有らば如何。若フルトンにして船舶の大洋を航するに足る石炭を積載するを得

ざるを證する著書有る場合に、嘲弄に恐れて彼が企圖を放棄せば如何。彼は汽船によりて海上より輸入せらるる書籍を見んが爲めに活動したりしなり。又若アレキサンダー、グラハム、ベルにして電話の原理を實驗するが爲めに、彼が有ゆる資金を費し、且社會より妄想家として罵られたる場合に其事業を廢せば如何。サボナローが貧窮なる無名の一牧師としてフロンニスに入り、其各方面に卑む可き禍を見たる場合に、——是不合理なる奢侈より來るものにして罪は富人に存せるなりき——彼は直下に其生活の程度を向上せしめんと決心したり。勿論不斷に賄賂の近づき來る有りしと雖も聊かも

誘惑せらるる處無かりき。此時にアレキサンダー六世は富と力とを以てローレンゾー、ヂ、メジチを助けたるが爲め彼は實に僧正中の隨一たりき。然も熱性的なる改革者は爲めに失望する處無く、正義は最終の勝利者たるべきを確信して赤手此勁敵と奮闘し、終にメジチの專權を覆す事を得、且彼が願ふ處の「正義のみが支配者たる」國家を建設したり。彼サボナローは教會に殉したる者にして其理想を實現するを得たる者なり。ゾオルフが衆議院の委員の面前に呼ばれ、且カナダに於ける英人を指導するが爲めに選ばれたるを告げられし場合に、彼は戦争を停止せしめ得るや否やに關して尋ねられたり。時に彼

は其佩刀を脱し、卓を打ちて委員を罵り且選舉せられたるを悔むの自負と自尊とを示せり。然もヴォルフがアブラハムの平野に其軍隊の指揮を取れる場合には之と等しき信念が彼をして佛軍をホント、カームに全滅せしむるを得たり。

ナポレオン、ビスマルク、ユーゴー其他多数の偉人は自己に對する偉大なる信念を有せり。即彼等は其敵手をして激昂せしめ、嘲罵を敢えてせしめたり。然かも此性能凡べての大成功に對しては要用なるものにして、彼等の普通のを二倍三倍四倍にしたるものなり。又如何にしてか吾人はかのルーサー、ウエズレー、サボナローの如

き人物の成功を説明し得可きか。自己の天職に關する崇高なる信念無く、信任なければ如何してか虚弱なる一村娘たるジャン、ダークが佛國を指導し訓練し得可き。此力無くんば如何してか自己の兒童の如く數千の勇敢なる軍士を指揮し得んや。此神の如き信念は實に彼等偉人と呼ぶる人物の精力を數千倍ならしめたるものなり。米國が内亂の災を被れる場合に、一見謙遜なるリンコーンは或る政治家に語りて曰く、若し政治家にして彼を大統領に指定するを欲せば彼は應に選出せらる可く、且彼は政府を適當に統轄するを得可しと。此自信有る人に就て思へ。彼は實に教育修養の記すべきもの有らざりし

なり。グラントの崇高なる自信を思へ、彼は實に戦争前に於ては殆んど無名の一商人に過ぎずして彼が小社會以外には其名を知る者殆んど無かりき。——彼がリンコーンニ内亂を鎮定し得可きを語れる時——彼は從來且つて有らざる激烈なる公衆の非難を受けたれども其内亂を鎮定したり。合衆國の今日有るも、若リンコーン、グラントにして自己を信する事無かりせば果して如何なる可き。グラント以前に出でたる將軍は決して彼か如く自己の能力に關して確乎たる信念を有せざりき。グラントは其信念に何等の疑ひをも挿まざりしを以て完全に自己の位置の主裁者たるを得たり。若彼にして軍隊と機會とを有せ

ば直ちに敵を征伏し得可きを知れるも、他の者に至りては常に幾分の疑念を有したるが故に僅かに部分的の勝利を得たるのみ。

ニュー、オルレアンに於て英國の精兵に對したる僅なる佛軍が、大勢を換回するを得たるは實にジャクソンの偉大なる自信と信仰とに據る。ブエナ、ヒスタに於て將軍テイラーをして僅かに五十の寡兵を以てサンタ、アンナの二萬の大軍を打敗らしめたるは此信仰なり。

信任——絶体的信任は人を躍起せしめ、活動せしめ、成功せしむる處の創造的勢力なり。然るに不信任は之に反して分裂し、滅絶し、破壊せしむ。

疑惑、不確實等を排棄するによりて得たる強力なる自信は其集中力を増大する事驚駭するに堪えたり。實に是精神を亂だす處の動機を除くによる。是れ如何の方面にも誘致せらるる事無き精力を以て常に前進するを可能ならしむるが故なり。

發見者、發明者、改革者、大將軍、等は凡べて此無双の肯定の精神を有す、若吾人にして失敗者を解剖せば、吾人は其多くが自信の念薄く、且成功に最も著しき豊富な信念に欠くる處有るを見る可し。吾人は造物者が大事を爲す可き運命を與へたる人の手中には如何なる秘密の命令を受け有せりや知る事難し。然かも彼が可能なりと

信じたる處のものを爲す可き能力に就て又不屈の信念を有するの事實は是其明かなる證左と見る事を得可し。即造物主は決して或事を爲すの能力を與へずして、單に可能なりとの確信のみを抱かしむるが如き事を以て吾人を欺かず。

何人にせよ決して自己心裡に有する信念を動かし、或は自恃の念を破壊し去る事勿れ。是實に有ゆる大成功の眞の根本たるものなり。一度之を失はんか其企圖したる處の全建設物は俄然として倒壊す可く。之を有すれば汝は前途に大に爲す可き希望を有するものなり。自己が有する信念、羈束せらるる無く、動搖する無き信仰は是凡べ

ての大事を企つるに絶對的に必要なるものなり。自信は劣弱なる人を助けて成功せしむ。是恐怖、疑惑、不確實等、成功の敵たるものを排除するが故なり。精神は疑惑の存せる場合には勇敢に活動するを得ず。心常に動搖する處有れば、實行も亦従つて動搖す。自己を信じ企圖する處は必ず爲すを得可しとの信念を懐ける者は例へ無學なるも彼専門教育を受けたる者を墮若たらしむるもの有り。是其教育を受けたる者は過度の修養と注意とが感覺を鋭敏にし、反つて自信力を減するに至らしめ、其決斷力は相衝突する理論によりて弱められ、其偏見は常に確信に對して開かるるが故なり。

強力なる自信を有する無學者は精微なる感性を欠く。然かも鋭敏なる感性と修養とを有する人の受くる處の苦を知らざるの利有り。彼の腦力は理論によりて或は自己が如何に多くを知らざるかとの知識に依りて弱めらるる事無し。彼は單に修養有る人が躊躇するが如き場合にも先頭に立ちて突進す。

自信力の弱めらるる事、怯懦の念の發生する事は自由教育より來る不幸なる結果とせらるる處なり。予は兒童に就て是を見る。彼等は必ず成功せんと確信して専門教育に入る、然かも一度卒業して其校門を去るの時や此氣殆んど消磨し去りたるを見る。彼等が此氣概は反つて怯懦

の念と變せられ、實行的能力を損傷する事大なる萎縮的の念慮を抱くに至る。大學者は一般に隱退し、畏縮するが如き怯懦なる性質を有し、全然實行的能力を欠如せる場合有り。彼等の自信の念は消失して、自己否定と爲る。驕傲ならざる謙遜、忍耐、等は凡べて其正當なる場合に於て用うれば眞に望ましき性能なり。然し乍ら是等が決然たる自信と突進的の自己確信とに従屬せざる場合には極めて不幸なるものとなる。是等の愛す可き性能は學者をして交際し易からしむる處有るも、然かも實際的成功に遠ざからしむ。突進的實行的能力は有ゆる危急困難に際するも保たれざ

る可からず。然らざれば忽ちにして其境遇の爲めに拘束せられ、制限せらるるに至る可し。

自信力の影響

成功は單に吾人の熱心なる肯定と自信とにのみ據るものに非ずして、吾人に對する他人の信任に據る。然かも此信任なるものは吾人自身の確信即彼等に對して及ぼす吾人の人格の反映せる結果たる事は明かなり。かるが故に吾人の心的態度は他人に此信任を生せしむるの手段たり。汝の熱心なる肯定は實に傳染性を有し、其相接觸する處の者に影響す。就中教師、辨士、代理者、商人或は其他